

2019 年度
グローバルプロジェクト実績報告書
別添資料③

(日本遺産による小樽の歴史文化の広域観光資源化

・高野 宏康)

国立大学法人 小樽商科大学

【本件に関するお問い合わせ先】
小樽商科大学学術情報課（研究支援係）
TEL: 0134-27-5210
E-Mail: lib-kenkyu@office.otaru-uc.ac.jp

2019年度グローバルプロジェクト(研究分野)実績報告書

別添資料③目次

No	プロジェクト名	代表者
	日本遺産による小樽の歴史文化の広域観光資源化	高野 宏康
4	本プロジェクトの目的は、小樽市の日本遺産を活用することで、小樽の歴史文化の広域観光資源化、新たな広域観光ルート・コンテンツの開発、広域の地域連携を推進し、地域活性化とグローバル人材の育成に寄与することである。本プロジェクトでは、2018年度に認定された「北前船」、2019年度に認定された「炭鉄港」の2つのシリアル型日本遺産、2020年度認定を目指している地域型日本遺産について、①構成文化財の調査研究、②地域活性化事業、③認定効果の検証、を実施し、日本遺産のより効果的な活用に取り組む。 (別添資料) A)小樽市「地域型」日本遺産応援緊急シンポジウム アンケート用紙(2019.12.17) ……1 B)小樽市「地域型」日本遺産応援緊急シンポジウム アンケート結果(2020.3.13) ……2 C)2019年10月JR北海道車内誌『THE JR Hokkaido』(特集:北前船が運んだ夢)寄稿 ……8 D)2020年3月『小樽商科大学 人文研究』第138・139輯寄稿 ……12 E)2020年4月タウン誌『月刊ラブおたる』寄稿 ……37 F)事業チラシ・新聞記事等 ……38	

～小樽市「地域型」日本遺産応援～ 緊急シンポジウム アンケート

2019年12月17日（火）18：30～
小樽運河プラザ

① ご自身についてお聞かせください。

居住地：（ 小樽市内・その他： ）

性 別：（ 男性 ・ 女性 ）

年 齢：（ 10 代以下・20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代・80 代以上 ）

職 業：（ 会社員・自営業・公務員・学生・会社役員・その他： ）

② 当シンポジウムを、どのようにしてお知りになりましたか？

1. チラシ 2. 新聞記事 3. ホームページ 4. SNS
5. コミュニティ 6. 知人の紹介 7. その他 ()

③ 当シンポジウムにご来場した理由をお聞かせください。(複数回答可)

1. 日本遺産に興味がある 2. まちづくりに興味がある
3. 知人のすすめ 4. その他 ()

④ 日本遺産についてお尋ねします。

小樽市が「北前船」と「炭鉄港」で日本遺産認定されていることについて

1. 知っていた 2. この度初めて知った

現在小樽市が「地域型」日本遺産にも応募しようとしていることについて

1. 知っていた 2. この度初めて知った

今日のシンポジウムで「地域型」日本遺産の内容はご理解できましたか？

1. 理解できた 2. よくわからない
3. 理解できない 4. その他（ ）

⑤ 小樽市民の方にお聞きいたします。小樽の文化に誇りを感じますか？

1. 感じる 2. よくわからない
3. 感じない（理由：_____）

⑥ その他、当シンポジウムについてご意見、ご感想をご自由にお書きください。

筆記用具をお持ちでない方は、お手数ですが受付までお声掛けください。

アンケートにご協力ありがとうございました。

事務局：（一社）北海道中小企業家同友会 しりべし・小樽支部

FAX/0134-25-0765 [e-mail/otaru@hokkaido.doyu.jp](mailto:otaru@hokkaido.doyu.jp)

～小樽市「地域型」日本遺産応援～ 緊急シンポジウム アンケート結果

2020年3月13日

一般社団法人北海道中小企業家同友会しりべし・小樽支部と小樽市の主催で昨年12月に開催した「～小樽市『地域型』日本遺産応援～緊急シンポジウム」におきまして、83人（回答率66.4%）からアンケートに回答いただきました。その結果を以下の通りご報告申し上げます。

1. 小樽市と日本遺産について「小樽市が『北前船』と『炭鉄港』で日本遺産認定されていることを知っている（75人90%）」「小樽市が『地域型』日本遺産に応募しようとしていることを知っている（63人77%）」ことから、日本遺産について関心が高い方が参加者の大半を占めています。

2. シンポジウムでは「地域型日本遺産の内容を理解できた（63人93%）」方が多数を占めています。

3. 回答者の多くは「小樽の文化に誇りを感じている（72人92%）」と答え、シンポジウムへの自由記述でも肯定的な内容が36件中34件と大半を占めました。具体的には「多くの人に聞いてほしい（60代女性）」「若い世代に向けたものがあるとよい（40代女性）」など次回以降の開催希望や、「小樽は凄い街ということを再認識できた（60代男性）」「身近に素晴らしい遺産があると気付かされた（70代女性）」など地域の魅力を再認識したという声がありました。

1. シンポジウム概要

テーマ：～小樽市「地域型」日本遺産応援～ 緊急シンポジウム

プログラム

- ・講演1：目に見えない日本遺産（NPO法人 歴史文化研究所 副代表理事 石井伸和氏）
- ・講演2：小樽の地域型日本遺産の必要性（小樽市総合博物館 館長 石川直章氏）
- ・講演3：小樽の地域型日本遺産の内容（北海道職業能力開発大学校 特別顧問 駒木定正氏）
- ・宣言：小樽市地域型日本遺産応援宣言

開催日：2019年12月17日

会場：小樽運河プラザ

参加者：125人（受付で記帳した人数）

回答数：83人

回答率：66.4%

2. アンケート設問

設問	内容
ご自身について	居住地、性別、年齢、職業
当シンポジウムについて	・どのように知りましたか（選択回答方式・複数回答可） ・来場した理由をお聞かせください（選択回答方式・複数回答可）
日本遺産について	・小樽市が「北前船」と「炭鉄港」で日本遺産認定されていることを知っていますか ・小樽市が「地域型」日本遺産にも応募しようとしていることを知っていますか ・「地域型」日本遺産の内容を理解できましたか
小樽について	小樽の文化に誇りを感じますか
自由記述	ご意見、ご感想をお聞かせください

3. シンポジウム参加者（アンケート回答者）について

図 1

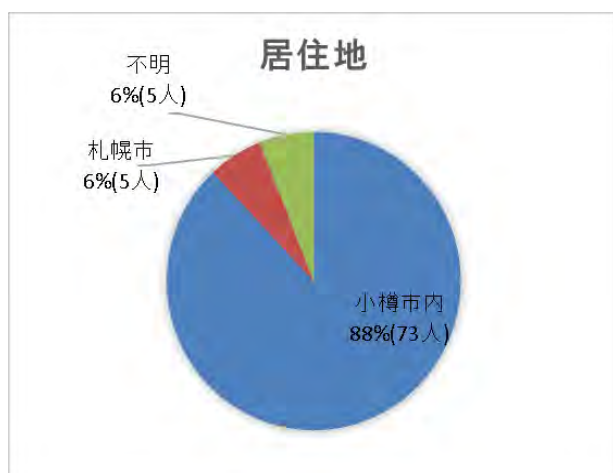


図 2

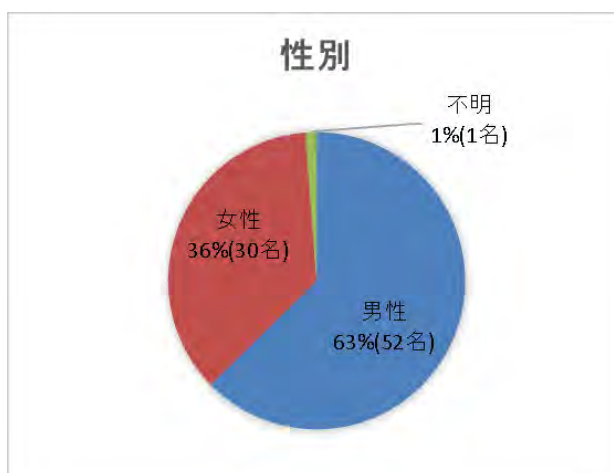


図 3

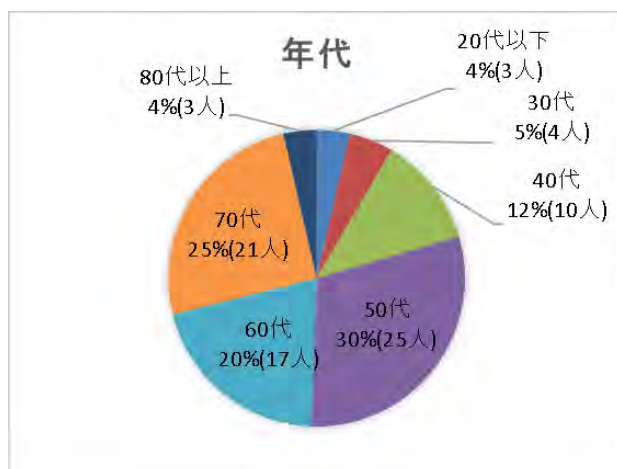
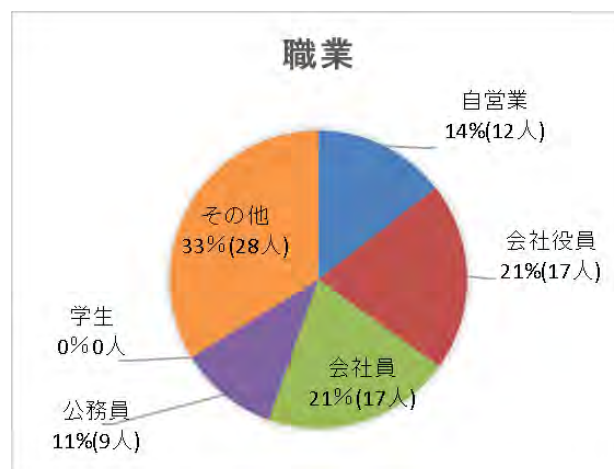


図 4



4. シンポジウムの認知・動機

図 5

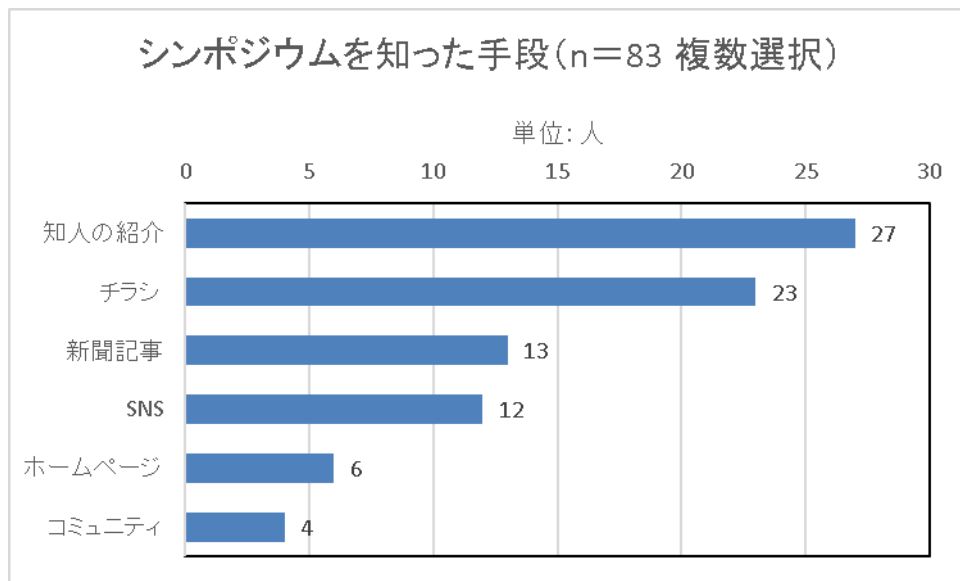
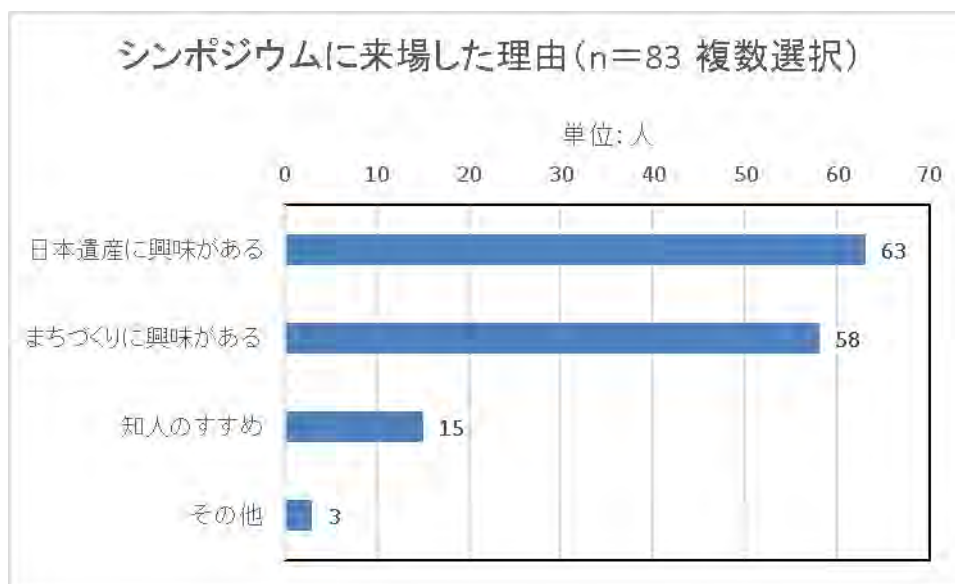


図 6



「その他」具体的な内容（自由記述）

- ・ガイドのスキルアップのため（70代男性、小樽在住）
- ・歴史に興味がある（40代女性、小樽在住・公務員）

5. 日本遺産と小樽市について

図 7

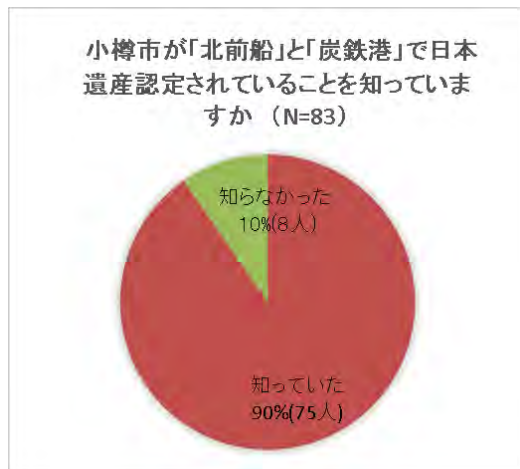


図 8

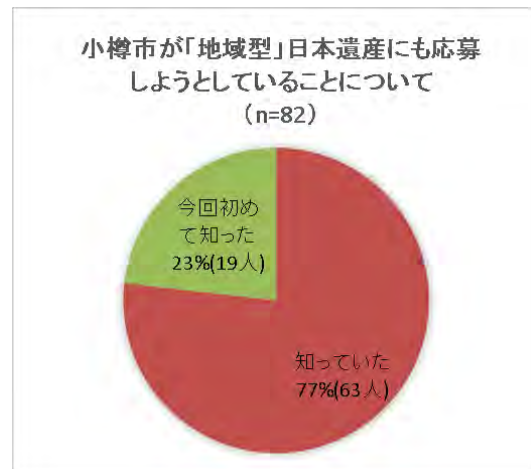


図 9

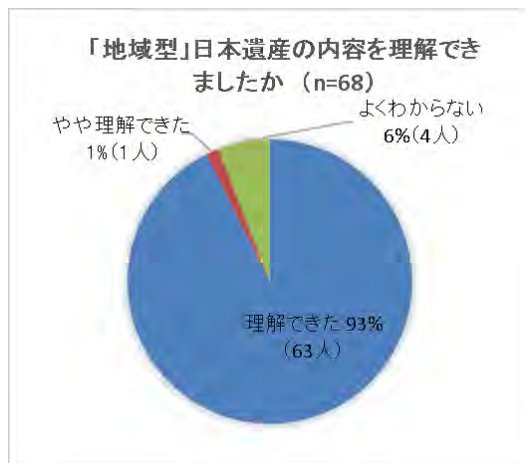
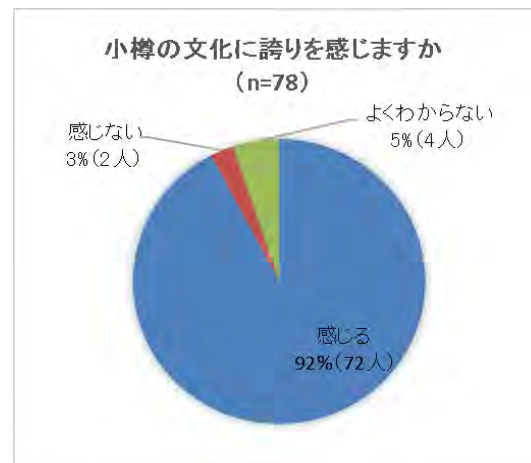


図 10



「誇りを感じない」理由（自由記述）

- ・ ひがむ、ねたむ、威張る人が多い
(50代男性、小樽在住・会社員)
- ・ 文化という程の歴史ではない
(50代男性、小樽在住・会社役員)

6. 当シンポジウムへの意見・感想（自由記述）

図 11

	分類	年代	性別	職業	回答
1	日本遺産について	70代	男性	その他	日本遺産100に登録されることは「世界遺産に向けての参加資格と理解。若者の参加に期待。
2	日本遺産について	50代	男性	その他	石川館長は最後に本当に良いことを話した。何のために今、皆で日本遺産ストーリーをつむいでいるのか自覚しないとイケない
3	日本遺産について	50代	男性	会社員	日本遺産登録達成を祈っている。
4	日本遺産について	50代	男性	その他	日本遺産の事が良くわかり良かった。地域型、シリアル型があるのも始めて知った。
5	日本遺産について	50代	女性	その他	小樽のまちの活性化と歴史の継承のため、日本遺産選定を祈っている
6	日本遺産について	50代	男性	会社役員	物としても、事としても、日本遺産としてはコンパクトすぎる。
7	日本遺産について	60代	男性	公務員	地域型認定となることを願っている。せめて昨年もチャレンジしていれば
8	小樽について	50代	男性	会社員	大変興味深く話を伺うことができ、「知好楽」だった。小樽の街の風景は素晴らしい。
9	小樽について	60代	男性	会社役員	小樽の文化に誇り
10	小樽について	60代	男性	会社役員	小樽の価値が分かった。
11	小樽について	70代	女性	自営業	小樽に生まれ育ち外から小樽を見た事もなく数十年生活したが、こんな身近に、こんなに素晴らしい遺産があると気付かされた。あらためてシンポジウムに参加し、考えを変えられた。
12	小樽について	80代～	男性	会社役員	始めて小樽の歴史を思い出した。
13	まちづくりについて	60代	女性	その他	市民の生活と一体になったまちづくりはとても魅力的。
14	まちづくりについて	50代	女性	その他	文化財を増やすために、市民は具体的にどうすればよいか。
15	次回以降に向けた要望	70代	男性	その他	たくさんやって下さい
16	次回以降に向けた要望	60代	女性	その他	講演は熱く、時間が足りないと感じた。又あるとよい。多くの人に聞いてもらいたい。
17	次回以降に向けた要望	40代	女性	公務員	若い世代にも向けたものがあるとよい
18	次回以降に向けた要望	40代	女性	会社員	とても興味深く小樽の街の可能性を感じた。第2段是非お願いします。もっと沢山の人の知って欲しいと思った。
19	次回以降に向けた要望	50代	男性	会社役員	もっとテーマをしばったシンポジウムの的なものを聞きたい！
20	次回以降に向けた要望	50代	男性	会社役員	運動としてはマリノホールで広く市民に知ってもらうべき。そういう機会を多く作っていくのがよい。
21	次回以降に向けた要望	60代	男性	会社役員	小樽市と同友会と一緒にシンポジウムを開催した事は、大きな出来事であり、これを機に、相互の協力で新しい“何か”を作り出せると期待。
22	次回以降に向けた要望	60代	男性	会社員	小樽は凄いい街という事を再認識できた。又催しをお願い致します。
23	その他	70代	男性	その他	三者の話をコンパクトに聞けて良かった。ガイドの中で使える引出しが多くなった。
24	その他	40代	男性	公務員	同友会の方々が主催者であることの大切さを感じた。
25	その他	50代	女性	会社員	石川さんの苦言、提言への迫市長のことがうれしかった。議会等で言及を期待。
26	その他	50代	男性	会社役員	旧岡崎家能舞台で地元小学生が体験学習をしている様子も是非アピールにお使いいただきたい。「北前船」や「通信の繁栄」とも関連する。
27	その他	50代	男性	会社員	「緊急」が何を意味するのかわからなかった。新日本遺産の登録に関しては市民に理解を求める段階はすぎ、役所内作業をがんばるべき
28	全体的な感想	70代	女性	その他	良く分かりおもしろかった
29	全体的な感想	70代	女性	その他	とてもわかり易く良かった
30	全体的な感想	70代	女性	その他	大変勉強になりとても良かった
31	全体的な感想	60代	男性	その他	勉強になりました！
32	全体的な感想	20代	男性	その他	とても有意義な会だった。
33	全体的な感想	50代	女性	会社役員	ためになった。良かった。
34	全体的な感想	50代	男性	会社員	大変良かった。
35	全体的な感想	60代	女性	会社役員	大変すばらしい説明だった。三人の先生方お疲れ様でした。
36	全体的な感想	80代～	女性	自営業	大変良かった。

7. 緊急シンポジウム 小樽市地域型日本遺産応援宣言

私たち小樽市民は、現在進めている地域型日本遺産申請に賛同し、認定を希望しつつ、より多く市民の皆様に伝え、応援の輪を拡げていくことを、ここに宣言します。

2019 年 12 月 17 日

小樽市地域型日本遺産応援 緊急シンポジウム

主催者・賛同者一同



北前船が 運んだ夢



——寄港地の遺産をたどる

江戸中期から明治後期にかけて、上方と北海道を結んだ廻船^{かいせん}があった。

大坂(大阪)から瀬戸内海を西進し、関門海峡を通り、日本海を北上して松前三湊^{まつまえさんみなと}(松前、箱館、江差)^{はこだて えさし}に至り、^{にしんかす}鯨鮫や塩鮭、昆布などを満載して、大坂に戻った北前船である。

その軌跡は日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」に認定され、北海道の函館市、松前町、小樽市、石狩市も含まれている。

北前船が運んだ夢は、今も地域に生き続けている。

日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」
に認定された45市町



神社に鎮座する狛犬^{こまぬい}といえば、御影石^{みかげいし}で作られたものを想像する方が多いのではないだろうか。しかし石狩市の石狩弁天社に伝わる狛犬は濡れると青みを帯びて見える^{しずだに}、笏谷石^{しやくたに}で作られている。笏谷石は、福井県福井市の足羽山産。しかも狛犬の胴体には、酒田や秋田といった北前船寄港地の地名が記されている。石狩では古くから村山家を場所請負人^{ばしょけいねい}として鮭や鯨漁を行う石狩場所が開かれていた。狛犬は、石狩場所を目指した北前船の船乗りが、航海の安全を祈願して奉納

石狩の狛犬はなぜ青い？

①江差町の鵜島にある厳島神社の手水石(ちようずいし)は北前船関係者が寄進したもので、方角が刻まれている。船乗りたちが天候判断を行ったと伝えられている。②江差町内ではあちこちで笏谷石を見ることができる。焼神大神宮に敷き詰められた笏谷石。③鵜島に残る北前船の係留地跡。④旧中村家住宅のハネダシ。かつては建物の下に海が迫っていた。船荷の揚げ降ろしに便利な構造だったことがわかる。⑤北前船が運んできた瓦は、旧檜山爾志郡役所(江差町郷土資料館)など、今も江差の歴史的な建物を守っている。

①～⑤写真提供=江差町教育委員会



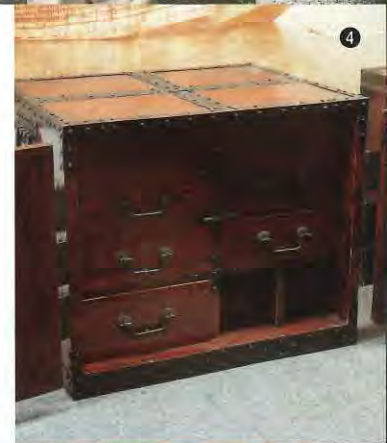
小樽市総合博物館運河館には、北前船の模型とともに航海を物語るものが多数展示されている。艶やかな漆塗りの地肌と重厚な金具が印象的な船筆筒(ふねだんす)について、同館学芸員の菅原慶郎(すがわら けいろう)さんはこう語る。「ずっしりと重たいものですが、高い気密性が保たれているので中の空気が浮きの役割を果たして浮くといわれています」。万一、船が沈

港ごとの特色を再発見

くに河口があつて、鳥居は河口の方に向いていたのです。河口は海の波と川の波がぶつかる船の難所でしたから、弁天社に河口を見守ってもらえるよう、航海安全の願いを込めて鳥居を建てたのでしょう」。

江戸時代、米のとれない松前藩の財政を支えていたのは、蝦夷地の産物を本州に送る交易だった。場所請負制のもと、商人は武家から請け負った「場所」で取れた昆布、塩鮭、

したもの。北前船とは、江戸中期から明治後期にかけて、上方と北海道を結んだ廻船のことだ。その軌跡を伝える狛犬は「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間」北前船寄港地・船主集落」として、今年五月に日本遺産の構成文化財に追加認定されたばかりだ。日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、ストーリーを語る上で欠かせない文化財群を構成文化財という。ストーリーや文化財の活用を通じて地域活性化を図ることを目指している。



鯨鮫、木材などを本州に積み出し、本州の米、塩、醤油、酒、砂糖などを移入した。北前船は単にものを運ぶのみならず、A港で仕入れたものをB港で売る「買積」によって大きな利益を上げた。それは一航海で千両。今の貨幣価値で一億五千万円以上に匹敵する。船頭も自分で品物を仕入れて売りさばくことが認められていた。北前船が「動く総合商社」と呼ばれるのはそのためだ。笏谷石の多くは、下りが軽く、上りが重い、荷の重量を調節するバラストとして積載された。松前藩は松前三湊(松前、箱館、江差)で税を徴収し、それ以外への寄港を認めなかった。宮司の花田和彦(はなだ かずひこ)さんいわく「石狩川河口では砂洲(さすい)が年々、延びています。石狩弁天社は三百年以上の歴史があり、昔は鳥居のすぐ近

没しても貴重なものが失われずにすむ。さらに菅原さんは意外なことを教えてくれた。「小樽では北前船とは呼びませんでした。江戸時代以前から大坂や瀬戸内海沿岸の人々は日本海方面を北前と呼んでいて、その人たちの船だから北前船となったようです。今、小樽市内の小学五年生向けの副読本を作っていますが、その中でも船形に即して『弁財船(和形帆船、日本形帆船)』と書いています」。地域の歴史に根差した呼称を大事にする思いを込めたのだった。



①高野さんは北前船主集落として知られる橋立(石川県加賀市)出身で、曾祖父は北前船の船乗り。②社の中に狛犬が鎮座する石狩弁天社。③宮司の花田さんと石狩弁天社の鳥居(現在は石狩八幡神社にある)。鳥居は兵庫県の白御影石で1813年(文化10)に作られ、北前船で運ばれた。④小樽市総合博物館運河館に展示されている船筆筒。⑤「北前船」の呼称について意外なことを教えてくれた菅原さん。⑥海水浴の少年たちが和形帆船などを眺めている。昔日の小樽。小樽市総合博物館所蔵。⑦小樽市総合博物館運河館の建物も北前船主が建てた。⑧博物館の近くにある旧大家(おおいえ)倉庫も北前船主のものだ。

●小樽市総合博物館運河館／小樽市色内2-1-20 ☎0134-221258。9:30～17:00。年末年始休館。一般300円。高校生・市内在住の70歳以上の方150円(すべて税込)、中学生以下無料。



うように、地域ごとに異なる特徴がおもしろいのです」と、北前船をめぐる風景が異なることを強調する。松前は武家のまちであり、かつ港の機能を優先した港湾都市だ。江差は近江商人をはじめとする商人が活躍したまちで、三湊の中で最北にあるため早くから大量の物資が集まり繁栄した。海に突き出した構造で荷物の積み下ろしが便



上は取引先の船の特徴を一覧にした「諸国御客船帆図録」。下の5枚の船絵馬に描かれているように、船主ごとに帆の決まった部分が黒く塗られ、遠くからでもこの船かわかるようになっていた。よいち水産博物館に展示。



余市場所には早くから本州の船が来ていたことを教えてくれた浅野さん。



●よいち水産博物館／余市町入舟町21 ☎0135・22・6187。9:00～16:30、月曜・祝日の翌日休館（月曜が祝日の場合は火曜休館）。高校生以上300円、小中学生100円（すべて税込）。



上の船絵馬が奉納されていた茂入神社（余市町入舟町）。1825年から1869年まで、余市場所請負人の竹屋林家が弁財天を祀った神社である。

物を届け、余市から鯨や鯨を運ぶ便は往來していたはず。当時は余市も岩内も寿都も小樽も、同等の鯨や鯨の積み出しがあり、必要とされる生活物資も多かったのです。同館には船絵馬が七点も展示されている。絵馬というと十ヶ四方の板をイメージされるだろうが、船絵馬は一般に縦三十センチ、横四十

センチほどあり、数メートルに及ぶものもある。航海では無事到着した港の神社に奉納する。帆の黒い箇所が異なるのはそれぞれの船主の目印だ。

余市や小樽、石狩といった松前三湊より北の地域に北前船が来航するようになった時期について、石狩市郷土研究会事務局長の石黒隆一さんはこう語る。「明治維新後に松前藩が廃止されると、開拓使は箱館と松前、江差の沖ノ口役所を一八七〇年（明治三）までに廃止します。松前藩が厳しい徴税のために立ち寄りを強制した沖ノ口役所がなくなると、北前船は自由な航行ができるようになりました」。

道の駅石狩「あいりど厚田」の二階には、一八九二年（明治二十五）の厚田の様子を伝えるジオラマがある。石狩市浜益区在住の八田美津さんが作った表情豊かな人形たちが、北前船を迎えている。精巧な船や積み荷は石黒さんと妻の美香子さんが作り上げた。「北前船の最盛期は明治十年代から二十年代。衰退は明治三十年代からで、原因として鯨粕の需要の変化を考えると必要があります。政府は、国産綿



①約260年前の松前城下が描かれた「松前屏風」。海に面して商人の邸宅や土蔵が並び、沖には帆を上げて航海する北前船が、沿岸には帆を下ろした北前船が見える。日本最北の城下町であり、北前船による交易都市であった松前の姿。松前町郷土資料館所蔵 ②明治初期に完成した福山（松前）波止場。北前船を係留した杭が残っている。③北前船の船乗りたちが出港前に日和をみた函館山。④北前船で財をなした高田屋は箱館に屋敷を構え、蝦夷地の拠点とした。高田屋屋敷跡、本店跡（写真）も日本遺産構成文化財に。⑤、⑥写真提供＝函館市



利な構造「ハネダシ」の商家建築も残されている。

函館は、北前船の船頭から幕府の御用にも関わった大商人、高田屋嘉兵衛の色濃いまち。嘉兵衛は私財を投じて箱館の都市基盤を整備、造船所も建設し「箱館発展の恩人」と称される。

明治以降に開拓の玄関口となった小樽では、船主たちが倉庫を建造して営業倉庫業を立ち上げた。北海道は米をはじめとする膨大な生活物資を必要としたからだ。倉庫群は小樽の重要な観光資源だが、その多くは北前船主たちの置き土産なのである。

そんな中で高野さんが注目している北前船主が西谷家だ。



「西谷家のルーツは多くの北前船主集落がある石川県。小樽市総合博物館運河館の建物となっている旧小樽倉庫の事実上の経営者でもありました。倉庫業、貨物運送業、農場経営、温泉経営などを行い、小樽の洋画家・中村善策の支援もしました。小樽の倉庫群を北前船主たちが作ったことを知り、その価値を再発見してもらえたらと思います」と、高野さんは語る。

松前三湊より北へ

よいち水産博物館館長の浅野敏昭さんはこう語る。「十九世紀前半の文政年間から弁財船は余市場所に来ていました。北前船の目的地は松前三湊ですが、そこから余市に荷



大漁家・佐藤松太郎が加賀の寺谷家と共同で、北前船経営を始めた様子を描いたジオラマ。鯨粕の俵は1俵が90kg以上あった。船は部材ごとに使われる木材が異なるが、ジオラマもそれを忠実に再現している。



佐藤松太郎と北

寺谷家

佐藤松太郎家

倉敷市児島のジーンズで取材に応じてくれた石黒さん。

花を利用した近代的な紡績工業を進め、綿花生産量は明治二十年に最高となりました。この頃から日本独自の『ガラ紡』という紡績機に代わって、英国から新しい機械が輸入



●道の駅石狩「あいろんど厚田」／石狩市厚田区厚田98-2 ☎0133-78-2300。10月は9:00～17:00(飲食テナントは10:30～16:00)、冬期の営業時間変更あり。無休。



北前船が運んできた九谷焼や輪島塗は、今も各地に残っている。

され、原料も繊維の長い中国やインドの綿花が使われ始めます。明治二十九年に輸入綿花の関税が廃止されたことによって国産の綿花生産は激減し、北前船と鯨粕は重要な需要先を失いました。国産綿花生産地の一つが、瀬戸内海を干拓して広大な農地ができた岡山県倉敷市児島だ。石黒さん夫妻は現地に訪問もした。「干拓地は土壌に塩分が残っているため最初は米が作れない。そこで商業作物の木綿を作ったのです。繊維産業のまち児島は国産ジーンズ発祥の地でもあります。肥料として鯨粕がいか

に重要だったかを強調したい」と石黒さん。北前船寄港地の連携が盛んになり、倉敷市と石狩市の小学校の交流も始まった。小学校校長だった石黒さんは、石狩市立生振小学校で北前船の歴史を伝える講師を務めた。子どもたちの交換メッセージを読むと、歴史が地域をつなぎ、心をつなぎ、好奇心を育てていることがひしひしと感じられた。

北前船は近世から近代にかけて、日本の大動脈だった。板子一枚下は地獄の航海は、各地に

北前船の寄港地として栄えたことが分かる様々なものが残っている。紙国神社は、小学校の目の前にあります。ワークショップでも行って、勉強しました。

むかし下津井廻船問屋でも館長さんから北前船のことを学びました。

北海道の石狩などから購入したユタシ 糸で綿花栽培が栄え、今でも繊維の街として全国でも有名です。特に学生服やジーンズの生産は盛んです。小学校でも綿の栽培をしています。今年もたくさん綿が収穫できました。

北前船メッセージを送ってくたさ、ありがとうございます。石狩市とのつながりを感じながら、これからもふろさと学習を進めていきたいです。

石狩と北前船の紹介

北前船が石狩から買った物は、カズノコやニシン粕みかきニシン、塩引き鮭、コンブ、魚油などたくさんありました。その中でも大半を占めていたのがニシン粕でした。

倉敷市にメッセージを送る理由

倉敷は石狩が高くニシン粕を買ってくれました。それによって石狩にお金が流入、開拓に必要な生活物資を買うことができました。北前船は、行きも帰りも宝船だ。人と人をつなぐ宝船にもなりました。

北前船を通して考えたこと

北前船を通じて色々な県との、交流したいです。

豊かなものを残したことだろう。北前船が運んだ夢は終わっていない。地域がそれぞれの魅力を再発見し、未来を築いていく。そんな夢が、北前船の歴史を力にして、これから始まるのだ。

小樽に進出した北前船主・西谷家

高 野 宏 康

小樽商科大学 人文研究

第 138・139 輯 2020 年 3 月

目次

1. はじめに
2. 西谷家について
3. 西谷家の小樽進出
4. 西谷家の事業展開
5. 小樽での西谷家

1. はじめに

小樽には明治期に北陸の北前船主たちが建てた木骨石造倉庫が多数残っており、その内、旧北浜地区の5棟は2018（平成30）年、「北前船」日本遺産の構成文化財に認定されているが（注1）、それらを建てた船主たちの実像、小樽に進出した経緯や事業の実態、地域社会への影響などについてはよく分かっていない。船主たちの故郷などに資料が残っているが、北海道との関わりの視点からは十分な調査研究が行われているとはいえず、課題となっている（注2）。

旧小樽倉庫の創設者の一人、橋立（石川県加賀市橋立町）出身の船主・西谷家の資料調査が、2017（平成29）年から小樽商科大学、北海道北前船調査会と、石川県の加賀市、橋立町、全国北前船研究会の共同で進められており、約1万点以上の資料が確認され、これまで断片的にしか知られていなかった、18世紀半ばに創業した同家の歴史、小樽との関わりの実態が明らかになってきた（注3）。

西谷家は、小樽倉庫を創業する際、同郷の親戚にあたる西出孫左衛門家に出資を依頼するなど、全国有数の北前船主を多数輩出した加賀では資産規模は突出している訳ではないが、興味深い特徴を持つ船主である。

1点目は、西谷家は江戸中期以降、大阪と松前間の買積みを中心とするいわゆる北前船交易を家業としてきたが、明治以降は小樽を拠点とし、北海道内各地、樺太など

で倉庫業、回漕業、海陸運輸業などの様々な新事業を立ち上げ、新たな業態への転換に成功した船主であることである。2点目は、五代目庄八は大正期以降、自らの詳細な履歴書、回想録、海運創業 150 年・回漕店開業 30 年（1920 年）を記念した西谷家と事業の歩みをまとめたパンフレットや新聞記事、社史的な冊子を発行（1927 年）するなど、西谷家の歴史を後世に伝えようとする意志を持ち、文書、文献、写真など様々な記録を残していることである。これらは、西谷家の小樽進出の経緯、事業についての考え方などを知ることができる貴重な資料となっている。

3点目は、西谷家は五代目庄八以降、故郷の橋立の実家と小樽の別邸（東雲町）を往き来する生活を明治期から昭和期まで送っていることである。橋立の西谷家に残る資料の約 3 分の 2 が小樽・北海道での事業に関するものである。小樽に進出した他の北前船主は支店を開設しても住居を構えて生活することは稀で、西谷家は橋立と小樽の両方に事業と生活の基盤を持つことで、両地域で幅広い交流・活動を行っていた。

これらの特徴を持つ西谷家の歴史と事業の実態を資料に基づいて明らかにすることで、小樽に進出した経緯や事業の実態、地域社会への影響、そして、これまで定義や概念について様々な議論が続いている「北前船」「北前船主」の考え方について新たな知見を得られると考えられる（注 4）。

2. 西谷家について

（1）資料の内容と特徴

これまで西谷家については小樽に進出した五代目庄八（1860-1933）の経歴の一部が紹介されているが（江沼地方史研究会編、2017 年）、2017 年度からの西谷家資料調査で確認された資料によって初代以来の同家の歴史と事業の沿革が明らかになった。また、西谷家に残されていた資料の他に、五代目庄八の孫にあたる水島明子が収集・整理した資料があることが分かった（注 5）。まず、本稿の主要資料であるこれらの資料の内容と特徴を説明しておく。

五代目庄八は、節目となる時期に同家の歴史および自身の履歴、事業の沿革等をまとめており、いずれも貴重な情報が含まれた記録となっている。1920（大正 9）年には、西谷

家の海運創業 150 年・回漕業開始 30 年を記念して案内書類を作成し、関係者へ粗品とともに送付している（注 6）。各地の新聞に関連記事が掲載されており、それらはスクラップ帳（「三十年記念新聞記事抜翠」）にまとめられている。

1927（昭和 2）年には、西谷海運株式会社編『和船運送と北海道 附 西谷海運会社沿革』、『和船運送時代に於ける北前船主協会の決議録 船道定法 附 西谷海運会社沿革』と題された社史的内容の冊子を 2 種類発行している。前者は、最初に東北帝国大学教授・法学士で海商法を専門とする小町谷操三の論文「和船航海について」、次に「西谷海運株式会社の沿革と現状」、そして、この部分の下段に「代理及仲立業の動機」を掲載するという構成となっている。これらの社史は牧野隆信が最初期の北前船研究として言及している（牧野隆信、1989 年）。

小町谷教授の論文は、『法学志林』（法政大学、第 27 巻第 12 号、1925 年）に所載されたもので、和船航海についての概説である（注 7）。1925（大正 14）年に小樽で五代目西谷庄八から聞いた話をまとめたものであることが冒頭に記されている。「西谷海運株式会社の沿革と現状」は『海事彙報』に掲載されたものの抜粋で、「代理及仲立業の動機」は 1917（大正 6）年の小樽商業会議所からの調査の回答を抜粋したものである。それぞれ、和船航海の概説、西谷家の歴史と事業の沿革、回漕業創業の契機を説明した内容となっており、西谷家の北海道と本州の和船航海による通商を「北前船」として説明している。

後者は、最初に「船道定法」（寛政 8 年・1796 年）が掲載され、その後は前者と同じ構成となっているが、回漕業を始めた経緯は「代理店及仲立業の将来」と題され、同じく小樽商業会議所からの調査の回答を抜粋したものだが内容は異なっている。ここで注意したいのは、「船道定法」に「和船運送時代に於ける北前船主協会の決議録」と副題が付けられていることである。「船道定法」は橋立の船主たちが結成した「船道会」という組織の会合の審議事項を記録したものであるが、原文では「北前船」「北前船主」という表現は使用されていない。

西谷家調査で確認された資料には、以上の記録の元になったと考えられる履歴書、回想録があり、前述のスクラップ帳の記事の前にこれらの草稿が綴じ込まれている。一つは「西谷庄八の業歴（小樽商業会議所への回答写）」と書かれたカードが添付された原稿で、1917（大正 6）年 3 月 26 日の日付が記載されている。調査で確認できた資料で最も

詳しく履歴が記載されている（注 8）。

また、小樽市史編纂にあたっての調査依頼状（小樽市長・小柳藤太名）があり、「調査事項」として、「沿革」「歴代社長又専務取締役退職年月日」「学業概況」「其他参考事項」が挙げられ、1924（大正 13）年 6 月 6 日の日付が記載されている。回答内容は冒頭の一部しか残っていない。

西谷家の海運創業 150 年・回漕業開始 30 年を記念して作成された案内書類（1920 年）は、「西谷回漕店ノ現況ト店主庄八氏ノ閱歴」「略歴」が記載されており、前述の「西谷庄八の業歴（1917 年）」を整理して概要をまとめたものと考えられる。スクラップ帳にも綴じ込まれているが、こちらには朱筆で追記・訂正が書き加えられている。案内書類（1920 年）では、「日本型船舶ニ依レル航運ヲ業トシ」と記載されている部分に「所謂『北前船』の本場にして」が追記されており、この時期から社史の発行（1927 年）までに西谷家の海運業を「北前船」と位置づける意識が生じていると考えられる。

「五代庄八失敗履歴」と題した回想録は、五代目庄八がこれまでの自身の履歴を振り返り、小樽に進出後、紆余曲折を経て回漕業で成功するまでの流れは他の記録と同様だが、出来事の詳細な説明に自身の心情を交え、「失敗談」としてまとめられている。封筒に入った原稿とスクラップ帳に綴じ込まれた原稿の 2 点あり、後者は朱筆で校正されており、前者はその校正内容を反映したものである。執筆年は記載されていないが、大正期以降にまとめられた他の資料と同時期に執筆されたものと考えられる。

1930（昭和 5）年に発行された西谷海運株式会社の広告パンフレットは、西谷家の海運創業 170 年に発行されたもので、この時点での社史と江戸期以来の西谷家の家業と将来目指す事業のあり方が記載されており、同家の事業の変化を知る上で興味深い資料である。

社史や回想録以外では、西谷家の過去帳、位牌（関係者の生没年、メモ書きなどの記載あり）、書簡・ハガキ類、各種事業の関連文書が多数あり、社史や回想録に記載されていない事項、五代目庄八以後の西谷家の歴史とその事業についての情報をある程度確認することができる。五代目庄八の孫である水島明子が収集・整理した資料には、同氏が祖父母にあたる五代目庄八・和喜夫妻をはじめ、家族・親戚からの聞き書き、各種資料についての所感などをまとめた覚書類、詳細なコメントが記載された西谷家関連の写真アルバム等がある。西谷家にある写真類は説明がないものが多く、これらのコメントによって写真の

人物特定など様々な情報が得られる。親戚である西出孫左衛門家から提供された同家の歴史をまとめた私家版の冊子（注 9）も含まれており、西谷家と西出家の関係についても様々な情報が記載されている。

（2）西谷家の系譜

西谷家の初代庄八（莊八郎。文化元年・1804 年没）は、宝暦 10（1760）年、橋立（現・石川県加賀市橋立町）で自家所有船により、「交易海運業」を創始した。初代庄八は武家に生まれたが、「武家生活につき感ずる所あり」、浄土真宗に深く帰依し、分家して先祖と関わりのある「西谷」を名乗り、海運業を始めた。西谷家の旗印は、豊臣家につかえた片桐家の用船旗を用いていたが、これは西谷家の遠祖にあたる笹島家との関係に基づくことによるという（注 10）。

その後は、代々家業を継承したが、「世態に変化少なき為め」、明治 20 年代までは「初代の営業を其儘踏襲したるに過ぎず」としている。特筆すべきこととしては、二代目（莊市郎。文政 8 年・1825 年没）の時代に、当時、ロシア人が松前に来訪したことで「蝦夷地の施設注目さるゝに至り」、西谷家の航路が「蝦夷各地寄港本土一周定航」に拡張されたことが記載されている。この時期、1806（文化 3）年にはレザノフの部下ニコライ・フヴォストスが樺太の松前藩の番所を襲撃する事件が発生し、翌年にはロシア船打払令が発布されるなど、緊張関係にあったが、西谷家では商売拡張の機会と認識していたことが伺える。

三代目庄八（莊五郎。安政 2 年・1855 没）の時代には、「九州各地臨時寄港」するようになり、四代目庄八（莊八。明治 13 年・1880 年没）の時代は幕末から明治維新期にあたり、西谷家の所有船全てを和船から合子船に転換し、続いて西洋型帆船に改めている。

五代目庄八（万延元年・1860 年生。昭和 8 年・1933 年没。幼名は市松。後に莊五郎）は、1876（明治 9）年、16 歳で父（四代目庄八）の指示で所有船に乗り、寄港地とその取引の現場を見学しながら北海道と関西の間を航海した。1880（明治 13）年に父が亡くなり家業を継ぐと、当時、北海道開拓が注目されていたことから、1889 年に小樽を拠点に選り、西谷支店を設置した（注 11）。時代に先駆けて汽船運送への転換を進め、親戚の西出孫左衛門らに出資を仰いで小樽で営業倉庫業を創始し、回漕店、海運会社を立ち上げて西谷家の最盛期を築き上げた。五代目庄八は小樽に進出して以降、故郷の橋立の実家と小樽

本店を往復する生活を送っていた。一年の半分は小樽本店の社長室で勤務し、昭和初期頃には二人の子供の後見を怠らなかったという。

五代目庄八の人柄について、「加賀橋立の人先代より富豪を以て知られ、夙に海運業に従事し船主として事業家として、声明責然たるものあり、起落盛衰常なき回漕界に処し、創立以来一糸乱れず年々其隆昌を致し、巨然今日の成功を佩得して、西谷と云へば世人皆安んじて貨物を託して、寸毫も過失を疑ふものたし、庄八は性格経歴以て紳商として尊重すべき人物なり」と評されている（『小樽便覧』1915年）。五代目庄八の小樽進出以後については次章で取り上げる。

西谷家は、同郷の北前船主・西出孫左衛門家と家系・事業ともに深い関わりを持つ。初代庄八の長男、庄九郎は西出家の養子となり六代目を継いだとされる。西出家五代目孫次郎の長男孫左衛門が、1784（天明4）年、大聖寺藩の藩命により組外組の侍に取り立てられて一八常則に改名し、その3年後には勝手方元ヅ役に登用されたことで、六代目を継がなかったため養子をとったという。

この養子について、牧野隆信は、西谷一八常則家の記録から塩屋（現・石川県加賀市塩屋町）の船主・西野小右衛門の弟であるとし、橋立の西出家の由緒帳が一八常則の弟と記載していることについては義弟を「弟」と表記したためではないかとしている（牧野隆信、1989年、45頁）。それに対し、2003（平成15）年に西出家関係者がまとめた冊子では、水島明子（五代目庄八の孫）に取材し、西谷家では初代庄八の長男が庄九郎のまま西出家を継いだことで、二代目庄八となった次男は西出家の養子となった兄に遠慮して庄八を襲名しなかったこと、西谷家では西出家の養子となった庄九郎が西出家を隆盛させたことを誇りとしていること、西出家と西谷家の縁戚関係が密接で、五代目庄八の妻和喜は十代目、十一代目西出孫左衛門の姉妹であることなどから、西谷家説が正しいとしている（注12）。

水島明子は、この件について九代目西出孫左衛門の妻寿美と西谷家三代目妻・里与、四代目妻・重から聞いた話としている（注13）。また、江差の関川家「永代御客帳」に1785（明和5）年の「加州橋立」の船の入港記録があり、西出家五代目孫次郎、一八常則の子息・孫左衛門の船の船頭が西谷家初代庄八で、長男庄九郎の名前も記載されていることから、両家の関係が深かったことも根拠としている。直接確認できる資料な根拠はない

が、両家が海運業、婚姻関係ともに関わりが深く、西谷家出身の可能性も否定できないと思われる。

五代目庄八の妻・和喜は十一代目西出孫左衛門（1863-1938）の姉であったこともあり、五代目庄八と十一代目西出孫左衛門は非常に親しく、小樽倉庫をはじめ様々な事業を共同で行っている。小樽倉庫について、五代目庄八は「本家（西出家）は資本を出してくださる。私は実務をやる」と言っていたという。

和喜は、文久元（1861）年、西谷家と同郷の北前船主、九代目西出孫左衛門の二女として生まれ、誕生後まもなく五代目庄八の許婚となり、1880（明治 13）年に結婚した。1937（昭和 12）年に死去するまで、西谷家と五代目庄八について孫たちに語り伝えていた。

六代目正治（1889-1956）は、早稲田大学哲学科を卒業後、西谷海運の監査役を務めた。教養豊かな人物で、カメラは神戸の写真館の写真師に撮影を教えるほど詳しくあったという。小樽出身の画家・中村善策を少年の頃から支援し、画家として大成して以降も頻繁に手紙のやり取りを行っている（注 14）。六代目正治の妻・貞子（1897-1973）は、1897（明治 30）年、金沢で前田孝男爵の二女として生まれ、1917（大正 6）年 9 月、六代目正治と結婚。中村善策とは夫婦ともに交流があり、貞子の肖像画を描いている（注 15）。

六代目正治は幼少時、身体が弱かったこともあり、五代目庄八は、1918（大正 7）年に娘の正子（1901-20）と結婚した、石川県松任市の西川理三郎の三男・進（1893-1939）を養子とし、後継者とすることを考えていた。進は早稲田大学時代に正治と知り合い、親しい友人となった。当初、進を養子にすることについては正治が積極的に望んだという。

「社史」（1927 年）では二人について、「次子進氏は早大海運専攻の商学士にして専務の職に在り、長子正治氏は同大学哲学科の出身にして監査役を勤め、両氏何れも長年神戸の他会社にありて、海運業に対する研究、経験共に深く四十歳に近き活動盛り、進氏の建設的手腕に添ふるに正治氏の哲学的組織性あり、而して能く業界千軍万馬の法林翁庄八氏のあるあり。経営の堅実にして雄大なる実に偶然ならざるを知る可し」と、二人を高く評価している。

実際には、正治の体調は次第に回復し、六代目正治と五代目庄八の間には事業に対する考え方の違い、後継者を巡って確執が生じていたという。六代目正治は海運業など西谷家

の家業に対して距離をおく姿勢を取り、小樽や札幌等でカフェー三条やみかどホテルの経営など新規事業を展開していった。六代目正治は大正期から昭和期にかけて関心を集めていた生活改善運動に関心を持ち、独自の「新生活運動」を立ち上げ、労働問題、婦人問題など社会運動と関連するかたちで西谷家の事業を再編していった（注 16）。戦時期の海運業再編の影響も重なり、江戸期以来の西谷家の海運業は六代目正治の時代に事実上、終焉した。

七代目一正（1918-2011）は、旧制小樽中学（現・小樽潮陵高校）卒業後、早稲田第一高等学院（現・早稲田大学高等学院）で学び、1936（昭和 11）年に西谷海運株式会社に入社している。樺太の支店を任され、1938（昭和 13）年に兵役に就くまで小樽と樺太間を往復して働いていた。戦後、橋立と小樽を往き来していたが、西谷家の郷里である橋立町に移り住み、西谷邸を活用した料亭「恵比寿亭」を開業した。橋立で漁業会社（橋立漁船合資会社）、片山津温泉（石川県加賀市）でレイクホテルを経営するなど加賀市で観光業を展開していった。

七代目一正は、西谷家の歴史を後世に伝えるため、同家の資料の保存につとめ、様々な資料を小樽市に寄贈した。1987（昭和 62）年 10 月には、小樽倉庫株式会社から西谷庄八に贈られた感謝状（「恭贈銀杯詞」、1894 年・明治 27 年 7 月 20 日）を小樽市博物館（現・小樽市総合博物館）に寄贈しており、小樽倉庫の建設年代の特定につながった。市立小樽美術館には同家が所有していた中村善策の絵画を寄託している。

七代目一正は小樽市博物館の土屋周三学芸員（当時）を通じて小樽と交友関係を持ち、1991（平成 3）年 3 月、北海道中小企業家同友会小樽支部の青年経営者懇談会（代表世話人：石井伸和）のメンバーが加賀市を訪問した際、七代目一正が経営する恵比寿亭で昼食を取り、懇談している（『中小企業家しんぶん』1991 年 3 月 25 日付）。

3. 西谷家の小樽進出

（1）五代目庄八の見た小樽

五代目庄八が小樽に進出して以降、西谷家の事業は成功と失敗を繰り返し、紆余曲折を辿っているが、小樽倉庫を譲渡した経緯等も含めこれまでその過程はよく分かっていなか

った（注 17）。明治政府が北海道開拓に力を注ぎ始めたことを背景に、1889（明治 22）年、五代目庄八は小樽を拠点に選り、西谷支店を開設し、「物産部」と「海運部」を設置した（注 18）。この時、旗印を「＝」（二引印）に改めている。同年、汽船「北海丸」と「小島丸」を新造し、汽船運送業に進出したが、当時、小樽では汽船運送業に必要な倉庫がなかったため、翌年、伊達侯爵家らと共同して小樽倉庫株式会社を設立し、同家の倉庫部にあたる位置づけとし、汽船時代に備えたとしている（「社史」1927 年）。

小樽進出と汽船導入の背景として、西谷家では代々、和船による「交易海運業」を継承してきたが、明治維新前後に、世情が激変し、西谷家の千石船も「合子船」「西洋型帆船」を経て「汽船」に変わり、電信の普及は「松前交易」を不可能に陥らせたとしている。五代目庄八は当時の小樽の様子、進出した経緯を以下のように書いている（「海運業 150 年・回漕業 30 年記念案内書類」1920 年）。

父祖ノ資質ヲ享ケタル氏ハ未タ若干ナラスシテ遠大ノ志望ト絶大ノ雄図ヲ懷キ徒ラニ父祖ノ遺業ヲ襲フノミヲ以テ屑シトセズ衷心決スル所アリシカ同十三年不幸父ノ喪ニ丁リ家業ヲ経営セサルヘカラサルノ機ニ会シ一層斯業ノ進展ヲ企画スルト共ニ富源ノ無盡蔵ナル北海道ニ着眼シ当時一小部落ニ過キサリシ小樽ヲ以テ優越セル地勢ヲ占ムル処ト為シ必スヤ道内唯一ノ商都トシテ内地航運ノ中心タルヘキヲ信シ尋テ西洋型帆船ヲ運航シ更ニ進ミテ汽船ヲ建造シ一意事業ノ振興ニ努ムルト共ニ回漕業ヲ兼営スルニ至レリ是レ実ニ明治二十三年ニシテ現今ノ西谷回漕店ノ端緒ヲ此ニ開キタルモノトス

「履歴書」（1917 年）では、より当時の小樽の状況が具体的に記述されている。函館から小樽へ商業者の関心が移行していく様子が伺える。

私が初めて乗船した時も父の船は小樽へ寄港した。ほんの一漁村で今日ではほとんど想像も出来ない有様であったが、毎年来ている内に土地の情勢にも通じて来、石狩の平原を見るに及んで益々小樽の望みあるを思ったのである。世人は函館々々と思っていたが、私は決然小樽に店舗を置くことにした。（中略）当時は銀行の外は悉く私達が船で持ってきたものを雑然と店頭並べて居る所謂「萬屋」なるもの、帆船時代の「船宿」は有ったが回

漕などと云うものはない。小樽の中心も今より北へ寄って居たのである。小樽区は未だ極めて幼稚なる状態にありたるものなるが如し、其時に当りて海岸の埋立と同時に店舗を建設し、小樽倉庫会社を建設し、店員の為めに 48 戸の貸家を建設して彼の理想による殖民地開拓の途に進みたるものにして、一方米穀取引所の創始とともに着々当区の発達を資する所ありたるものと認めらる。

当時、小樽では、いわゆる「萬屋」的な店や、「船宿」はあったが、近代的な「回漕店」がなかったことを指摘している。五代目庄八は、株式会社小樽米穀外五品取引所の創設に関わっており、高橋直治が理事長で、五代目西谷庄八は理事を勤めていた。

(2) 小樽倉庫と西谷家

小樽倉庫の会社設立までの流れ、倉庫の建設については、小樽倉庫株式会社が編集を進めている『小樽倉庫の 100 年』（編集中）で同社、小樽市総合博物館所蔵資料、新聞記事等を参照して詳細にまとめられている。これまで、1890（明治 23）年に設立、1893 年に開業、1895 年 8 月 7 日に小樽倉庫株式会社として発起認可。同年 11 月 14 日に農商務大臣・榎本武揚によって設立認可され、1905 年には三代目山本久右衛門に経営権を移譲したことが確認されている。

ここでは、五代目庄八側の資料で、小樽倉庫が西谷家の事業としてどのように位置づけられていたのかと、経営移譲までの経緯を確認する。五代目庄八は「履歴書」（1917 年）の「倉庫及金融業」で以下のように記載している。設立の「動機」は、「当時小樽区ニハ三井銀行及第二十銀行ノ存在シタルニ過ギズ」、米に限定してわずかにしか貸付を行っていないとし、「倉庫業者ナキ為メ其貸付率亦至ッテ低ク一般商人ハ多クノ商品ヲ抱キテ金融ノ道ナキニ苦シミ居リタル有様ナリキ」と当時の小樽の商人と金融機関の問題点を指摘している。さらに、「到底其発達ヲ期シ得ル望ミナク倉庫及金融業ノ出現ハ実ニ小樽区発展上ノ急務ナリト思ヒ」「一般商人側ヨリ切ナル懇請アリ意ヲ決シテ伊達家ト計タルモノナリ」としている。五代目庄八によれば、小樽倉庫は、営業倉庫として倉敷業務の一環であった倉庫業務を独立させ、どの船で運ばれてきても保管できることだけでなく、金融機関から様々な商品に貸付ができるようにし、貸付率も改善できるように意図して設立

されたことが伺える。

また、小樽倉庫の「状況」として、「一般商品ノ委託保管ヲ開始スルト共ニ此ニ貸付ヲ為シテ銀行ノ不備ヲ補ヒ」、米だけでなく、綿、煙草、砂糖などにも及び、「区内商人ノ利便ハ勿論当区金融機関ノ新例ヲ見ルニ至リタルモノナリ」と自ら評価している。そして、「初期ノ殖民時代ニ於テ当区ノ為メニ最モ貢献シタル事業ナリト信ズ」としている。五代目庄八は小樽倉庫を 1896（明治 29）年に譲渡したと記載しており、1905（明治 38）年に山本久右衛門が経営権を取得する前に西谷家は経営を離れていたことが確認できる。

小樽倉庫設立にあたっての五代目庄八の功績を伝える資料として、「恭贈銀杯詞」（1894 年）がある。当時の小樽倉庫株式会社が、同年 7 月 20 日に小樽倉庫株式会社の武田信政専務から倉庫の建築と会社設立を実質的に指揮した西谷庄八に贈った感謝状で、題目は「恭しく銀杯を贈る詞」という意味である。五代目庄八は、「此建築のことに至り、一身に担当して奔走薫督の労をいとわず」「独り本港の一大効用を起こしたる美挙なるのみならず、北海運輸の業をして一新利を得せしめすすんで生産を奨励し、全道致富の一機関たるに任ずるもの、皆君の賜りなりと云ふべし」と讃えられている（注 19）。

（3）五代目庄八の蹉跌

その頃、1894（明治 27）年に起こった日清戦争に際し、北海道の海運を担う船舶が激減し、本州各地との連絡に支障をきたすようになったため、応急策として、海運部で神戸のドイツ商館から汽船ラインゴールド号（2 千トン）を傭船した（注 20）。ところが、伏木港で不法な停泊を続けたことに対し、多数の荷主の利益のため過激な処置をとったため、ラインゴールド号は発砲して十数人の負傷者を出し、領事が仲裁裁判を提起するに至った。日本の外務省に仲介者の選定を一任し、ラインゴールド号に対してはドイツ公使に一任すると申し送り、外務省とドイツ公使との協議により、英国領事エンスリー氏に裁判を仰ぐことになり、彼は桜井一久とブラッシュフォードを弁護士として選んだ。

ラインゴールド号事件をめぐる係争は 3 年に渡り、結果的にそれまで外国領事裁判において日本人側が勝訴したことはなかったが、この裁判で西谷家は勝訴することができた。西谷家では「国際裁判事件に於ける初めての日本人勝訴者たるの名誉を荷ひ、我国領事裁判に新記録を作りたる」ことを強調している。結果的に勝訴したが、西谷家の海運部は財

政的に大きな打撃を受けた。

さらにその頃、物産部では、小樽で小豆取引に成功し、海運部の損失を補填することが
できるだけの利益を得たが、小豆の乾燥が不十分であったため、到着地の倉庫で保管中に
変色してしまい、大きな損失を被ったことで、西谷家は事業整理に追い込まれた。同 29
年に物産部を廃止、倉庫を譲渡し、船舶、地所建物など全てを売却して、回漕部のみを継
続することになった。商号を西谷支店から西谷回漕店に改称し、五代目庄八の弟・正吉に
経営を一任した（「社史」1927 年、「五代庄八失敗履歴」）。

同年、五代目庄八は大阪に転居し、同郷の北前船主、広海二三郎らが創設に関わってい
る日本海上保険株式会社常務取締役と、第七十九国立銀行常務取締役に就任し、海運業を
離れた（日本海上保険株式会社常務取締役は 1897 年に辞任。第七十九国立銀行常務取締
役は 1902 年に辞任）。しかし、1903（明治 36）年に正吉が病死したため、五代目庄八が
再び海運業に復帰することになった。約 7 年間、小樽、海運業を離れたことで、五代目庄
八と小樽の経済界との関わりが一時途絶えている。

五代目庄八が復帰後まもない 1906（明治 39）、日露戦後に日本領となった樺太庁から同
地の開拓への協力要請を受け、船舶取扱店の設置を依頼されたことで、大泊など数ヶ所に
支店出張所を設置している。ところが、樺太の支店出張所総支配人であった新井五郎右衛
門が経費を横領する事件が起こったため、再び西谷回漕店は打撃を受けた。

また、この頃、西谷家が所有していた美唄炭山 36 鉱区を手放している。同家は明治 20
年代から 30 年代初頭にかけて美唄炭鉱に資本投資を行っており、新炭鉱掘削に関する試
掘願いだけでも 30 鉱区に及び、天候不順等による作業の遅れから試掘延期願の提出が相
次いでいた。五代目庄八は「事志ト違ヒ実力事業ニ伴ハズ為ニ一大蹉跌ヲ来シ止ムナク之
ヲ放擲シ」と記している（「履歴書」1917 年）。当時、石炭産業は活況を呈していたが半
面炭山開発に失敗すると大損害を被る危険性を常に抱えながら行う投機性の激しいもので
あった（「北前船主・西出家と小樽」、小樽市博物館『第 44 回特別展 截金・その美と歴
史～人間国宝 西出大三の世界～』小樽市博物館、1990 年）。西谷家が所有していた美唄
の鉱区はその後、三菱鉱業株式会社の経営となった。

4. 西谷家の事業展開

(1) 会社組織の再編

その後、他の船主の支援などにより業績を回復することに成功し、1912（明治 45）年には神戸出張所を設置、1919（大正 8）年には釧路出張所を設置している（注 21）。第一次世界大戦終結後から、順次、各支店出張所を株式組織に改めている。1920（大正 9 年）年には西谷家の海運業 150 年・回漕業 30 年を記念して会社組織を改組している。樺太大泊（栄町 16 番地）の支店、釧路（西弊舞 16 番地）に設置した出張所は西谷家の一族の共同事業に移し、両地に西谷海運株式会社を創立し、北樺太亜港に出張所を設け、北樺太の物資の出入りに貢献した。

神戸市（栄町 2 丁目 46）に既設の西谷運輸株式会社は社名統一上、西谷海運株式会社に改称し、小樽本店のみ従来の経歴を尊重し、個人経営のまま継続し、各会社との密接な連絡を保つようにした。事業の進展に伴い、船舶と列車の連絡機関が必要となり、小樽市に海陸運輸株式会社（色内町 6 丁目 13 番地）を創設し、海陸運送の円滑を図った。

合資会社北都組は、北海道有数の鉄道船舶貨物取扱業者の北海送達組を前身とし、1906（明治 39）年、西谷庄八が海陸接続貨物の連絡のために買収して北都組と命名した。1912（大正元）年 9 月、法人組織に改め、合資会社北都組と改称し、西谷回漕店主任であった中木伊三郎を兼務執行役員とし、事業拡張と改善をはかった（注 22）。

1922（大正 11）年に小樽本店も株式組織に改め、商号を西谷海運株式会社に改称した。西谷海運株式会社について、社史（1927 年）では、「創業以来百五十七年、変転極まり無き海運界に在りて、能く巨頭たるの地位を失はざる処其所に西谷海運の伝統的堅実性あり。其所に常に時代を知る進取的精神あり。「最新の設備、最古の歴史」是こそ西谷海運の為に作られたる標語かとうなづかる」と伝統と近代性をアピールしている。

当時、資本金 50 万円払込金 30 万円で、元扱船舶は百数十隻に上り、島谷汽船株式会社、藤山海運株式会社、山本船舶部、北日本汽船株式会社、大阪商船株式会社、松田汽船株式会社、北洋商船株式会社、勝田汽船株式会社、太洋海運株式会社、靱商船株式会社など、北海道・樺太方面に配船する船主の大部分は西谷海運に船主代理店を委託していた。

各社の所有船舶の多くは小樽を起点とし、伏木七尾線、敦賀舞鶴線、新潟佐渡線、函館天塩北見線、樺太各線、関門兵阪線、京浜伊勢湾線、朝鮮大連線、南清線、濠州船、欧米

諸線など、多数の定期航路を展開している。小樽本店の代理店手数料だけで15万円を下らない利益を上げ、「如何に殷盛を極めて居るかを想像に難からず」としている。西谷海運の株式は、それぞれ3分の1ずつ西谷事務所、西谷家の親戚友人、従業員が所有するかたちをとっており、「協調的」としている。

附帯業務として、大阪海上火災保険株式会社、三菱海上火災保険株式会社、中外海上保険株式会社、富士生命保険株式会社、共同声明保険株式会社、笠戸島船渠株式会社の各代理店を委託し、税関貨物取扱を行っていた。

(2) 回漕業創設の意義

小樽に進出した後、五代目庄八は様々な事業を展開していったが、これまで述べたとおり大きな蹉跌も経験している。新たな業態への転換を成功に導いたのは回漕業を創設したことにあると考えられる。五代目庄八は、汽船を導入したが自家所有の船舶だけでは海運業を担うことができず、対応策を検討していた時、欧米を訪問していた知人から欧米の海運界の実情を知り、船舶代理店業（shipping agent）に関心を持ち、1890（明治23）年、回漕部を新設して所有船不足の問題を解決したとしている（「社史」1927年）。

船舶代理店業とは、本船の入出港に伴う関係官庁への許可申請や届出の業務を船会社及び船長の代理として行うものであり、船会社は寄港地すべてに支店等を設置することができないため、船の入出港手続きや積荷、船員に関する諸手続を船舶の所有会社に代わって行うものに委ねる必要があることから行われるようになった業務である（長岡信捷編『財団法人日本海事振興会史』1965年）。

「社史」（1927年）には、「代理及仲立業の動機」として、五代目庄八が時代に率先して西洋型帆船を汽船に改め、続いて船主代理（Oweners agent）と船舶仲立人（Ship Broker）としての業務を営むようになったことについて、明治維新以来の海運業の変化を考えていた頃、知人から以下の欧米海運界の実情を聞いたことが契機になったと記されている。

愈々汽船の時代になると思ったので、所有船を汽船に改めたが、船価の高汽船を個人の財力でそうそう建造できるものではない。会社にするとしても今の郵船会社でさえ未だ問題にならぬ状態であった時であったから、なかなか当時の同業者は危険がって手を出さない。そ

ここで考えたのは西洋の「 SHIPPING、エゼント」の話である。汽船になるまでに廻船問屋というものの仕事も漸々と此の「 SHIPPING、エゼント」の仕事に似寄つては来たが、従事する人間がまるで雪と炭程違って居る。前者は紳士中の紳士と云はれる程の者でなければ出来ない仕事となつて居るに拘わらず、後者は商人中でも最も劣等と見られて居た「才取り商人」の仕事となつて居る事である。帆船時代は廻船問屋の教養や品性、それから財産上の信用程度などは何でも宜かつたのであるが、汽船になるとどうもそんな安心の出来ぬ者では困るとは誰も我一様に思ふ處であるから、此仕事を併せてするとせば託される船も沢山に出来よう。さうすれば従来のように所有船許りでやつてゐるのと違つて荷物さえ有れば、いくらでも他人の船を呼ぶ事も出来、本道交通運輸の道を開くに好都合であると斯ふ考へて皆が止めるのを聞かずに始めたのである。

汽船時代には船舶代理店業（shipping agent）が非常に重要であること、廻船問屋と業務が類似しているようであるが、教養や品性、財産上の信用が求められること、自らの所有船で海運業を行うだけでなく、荷物があれば他者の船舶を使用することができる事が特徴・利点として指摘されている。

そして、五代目庄八は、「将に汽船運送時代になろうから、日本にも『 SHIPPING、エゼント』の現れる要があると考へて自分自らそれをしようとした事」「北海道の交通は手船丈では思ふ様に出来ないから他人の配船を引受ける事が策の得たるものであると考へた」ことが回漕業創設の動機であるとしている。

西谷回漕店について、棟方虎夫『小樽』（1915 年）は以下のように紹介している。「全国に覇たる西谷回漕店」は「海漕界のオーソリティー」で、「我が小樽回漕業者の中に、三十年の歴史を有して一指乱れず、信用愈々篤く基礎益々寧く、加之規模の大を以てして模範的回漕店と称されて居るのは、何と云つても西谷回漕店の右に出ふるものはない」。さらに「否、単に小樽といはず全道と云はず、真に日本全国の回漕業界に首位を争ふ誇りを有して居る」と評している。また、西谷回漕店の会社組織について以下のように記している。「多くの回漕店の事務取扱いぶりは雑然な状態を免れないが、西谷回漕店の事務分担法は理想的・系統的にできており、秩序正しい分業組織であり、各自の実績を挙げる事に努めつつ、各部の連絡を保ち、一致して業務の発展に資している。同店員数は 70 人。採

用方法は全くの人材抜擢で、学歴有無の如何にこだわらない。そのため各自責任を重んじて精励奮努する。店員に対する同店の待遇は極めて親切で、定期または臨時の昇給・手当はもちろん、退店者には勤務功績により少なからぬ恩給手当もある」。

西谷回漕店の会社組織が近代的に整備されたものであったことが伺える。「店則」（1913年2月1日改正、1918年12月1日改正）には、詳細に規定が記載されている。店則には五代目庄八が自ら書いた「禁酒禁煙を奨む」文章や、25箇条からなる「西谷執務憲法」もあり、西谷回漕店の社風は五代目庄八の性格が反映されていたといえよう。

(3)「船の西谷」と「移輸入者としての西谷」

1930（昭和5）年に発行された西谷海運株式会社の広告パンフレットは、まもなく創業170周年を迎える西谷海運の社史の続編的な要素を持ち、歴史的経緯と当時の課題、新事業について説明されており、当時の同社の事業展開を知ることができる興味深い資料である。

明治以後、西谷家の船が汽船となり、1889（明治22）年、小樽に西谷支店を設置し、「物産部」と「海運部」とに分けて以降の同家の事業について以下のように説明している。

自分の商品を自分の船に積載して自分で内地北海道間を商ひ廻つた過去二百年間の経験から、北海道に店舗を構へ、「海運部」は所有船で御得意様の荷物を積送して運賃商売を為し、「物産部」は船にかかわらず、其当時新たに始まった電報取引で居ながら売買をすることになったので御座いますが、商売の範囲は百年前と同じく西谷は内地の珍しいものを北海道へ移入して紹介し販売すると同時に、北海道の特産物を内地商人の注文により買ひ集めて送つて居たので御座います。處が日清戦争頃から二途を行く事が不利益になり、物産部は自然休業一に海運部にのみ力を入れなければならなくなりました結果、一時は「船の西谷」のみが知られて「移輸入者としての西谷」は影をひそめて居たので御座います。然るに欧州大戦終焉の頃から、「船の西谷」は北海道及び樺太各地の支店、出張所とともに株式会社組織に改められ、「西谷海運株式会社」として完全に独立する事となり、一面北海道は有力な商品需要地として漸く内地製造家の注目する處となり堅実な全道代理店を要望せられる機運に入りましたので、父祖の時代から継承した交易海運業の残された半面たる「移輸入者としての西谷」が愈々再生活躍すべき時期に到達したので御座います。

明治以降、「海運部」では新たに開始した汽船による海運業、「物産部」では江戸期以来の物産販売を続けていたが、日清戦争頃から両立が困難となり、「物産部」は休業し「海運部」のみになったことで「移入業者としての西谷」が影をひそめた、という認識は、江戸期以来の北前船交易の明治以降の業態の転換についての当事者の説明として興味深い。続けて、明治以降の回漕業と、今後「移輸入業者としての西谷」を再生させる事業として、以下のよう

に説明している。

近く創業百七十年を迎えむとするに当たりまして此間を大過なく北海道内地間の交易海運業者として、皆様の運送役を勤めさえて戴きました事を衷心から感謝いたします。殊に汽船運送時代に入ってから四十年は新たに始めました回漕業の開拓時代とでも申しましょうか SHIPPING エゼントの理想と稍もすると背反しようとする業界の傾向を矯正する為に皆様に少なからず御配慮を煩わしました事に想到致しますと今日の整頓せる回漕事務はむしろ皆様によつて成されたものとさえ想はれる事で御座います。

大正 15 年から愈々東洋第一の日本製靴株式会社の北海道樺太総代理店を手始めに、ダット自動車製造会社、東京硝子鋳業所、パパイネ製剤会社の総代理店等眞に、北方日本に採り入れて然るべき最も優秀な製造家の製品を追々と御紹介申し上げようと云ふので御座います。即ち西谷商会は創業百七十年の伝統的精神から、必ず斯ふした世界的な優良な商品のみを選んで之を北方日本に紹介し宣伝することを「使命」と心得て居るので御座います（以下略）

明治以降の回漕業の「開拓」とその成功に対する感謝を述べ、今後は「ダット自動車」「パパイネ製剤」等、当時の話題の新商品の紹介・販売事業を「北方日本」に紹介・宣伝することを強調している。西谷家が江戸期以来のいわゆる北前船交易の特徴である海運業と物産販売の両方を家業として認識しており、昭和初期に至っても「船の西谷」と「移輸入業者としての西谷」の両立を目指していたことが伺える（注 23）。

5. 小樽での西谷家

(1) 小樽と西谷家の事業以外での関わり

五代目庄八以降、西谷家は故郷の橋立と小樽を行き来する生活をしていて、事業だけでなく、小樽で様々な交流・活動を行っている。

小樽の金毘羅大本院と西谷家は関わりが深く、早くから支援している。1922（大正11）年12月、天狗山麓に金毘羅大本院建立に着手し、同12年9月、地鎮祭を執行した際、河原直孝、岡田市松、大西愼二らとともに、五代目庄八が参列し、尽力を讃えられている。1928（昭和3）年に金毘羅大権現奉齋会が設立された際には会員となっている。五代目庄八は海運に関わっていたことで金毘羅信仰を重視していたこともあるが、五代目庄八は天狗山山麓で農場を経営していた。近隣の常磐温泉、千登勢との関係もあり、このエリアと関わりが深かったことが背景となっていると考えられる（「金毘羅大権現奉齋会趣意書及会則」1928年）。

六代目正治は、小樽出身の画家・中村善策が少年の頃から才能を認め、様々な支援を行っている。善策は、1916（大正5）年、15歳で西谷回漕店に入社した。善策が画家になるために上京を決意する直前の半年間、小樽高商へ向かう地獄坂の脇に入る山道を登りつめたところにある虎杖の生い茂る山荘に籠もり、絵画に没頭していたが、この山荘は正治が提供した。、疲れた時には正治からもらった文学書や詩集を読みふけていた。

1928（昭和3）年、善策が結婚後、住居とした若竹町の新居は西谷家厚意により、同社所有の工場だった空き家を借り受けたもので、小樽築港駅のすぐ近くにあった。同年夏、この家から展望を描いた「北国風景」が二科展に入選した。当時、近所に小林多喜二が住んでおり、善策の家を頻繁に訪れて親交を深めている。多喜二の実家のパン屋からは毎日パンが届けられていた（中村善策、1983年）。

1931（昭和6）年、五代目庄八と和喜の金婚式を記念して造られた壽像は、五代目庄八と交流があった、小樽で活動した彫刻家・中野五一が原型製作を手がけている。この壽像は西谷海運株式会社の社員が発起して、金婚式の祝賀と関係事業からの引退を記念して贈呈したものである。寄附金は小樽の経済人や知人、会社関係者、故郷の橋立の知人などから幅広く募っている。壽像は橋立町内の亦楽園内に設置され、1932（昭和7）年に除幕式が行われた。五代目庄八没後、墓所の納骨堂左脇に移設され、現在に至る（注24）。

1933（昭和 8）年 3 月 3 日、五代目庄八が死去すると、北國新聞、魁新聞、北海タイムス、小樽新聞、北門日報、小樽毎日新聞、樺太の樺太毎日新聞、樺太民友新聞、大泊毎日新聞などに記事とともに、友人として北前船主の右近権左衛門、広海二三郎、大家七平、親戚として西出孫左衛門が連名で記載された死亡広告が掲載された。告別式は同月 6 日に、故郷の橋立、小樽、大泊で同時刻に行われている。記事では「小樽海運界の恩人」（魁新聞、1933 年 3 月 5 日付）と、小樽の海運への貢献を高く評価されている（「五代目庄八葬儀」所収のスクラップ）。

会社関係者や経済人らの弔辞の中で、五代目庄八と関わりの深かった野村治一良（北日本汽船株式会社社長）、小樽の廻船問屋として加賀の北前船主たちと密接な関係にあった塩田安蔵の弔辞では、「北前船ニテ北海道ニ渡ラレ」（野村）、「北前船時代ヨリ我が北海方面ノ海運ニ貢献セラレタル」（塩田）と、当時、国内、小樽の海運関係者の間で「北前船」という表現が使用されるようになっていたことが伺える。

（2）五代目庄八没後の西谷家と小樽

1933（昭和 8）年、五代目庄八の没後、六代目正治は海運業など西谷家の家業に対して距離をおく姿勢を取り、前述の通り、小樽や札幌等でカフェー三条やみかどホテル経営などの新規事業を展開し、新生活運動に深い関心を持ち、西谷家の事業を再編していったことで、西谷家の海運業は事実上、終焉を迎えた。

五代目庄八の養子、西谷進は 1939（昭和 14）年に死去し、その後、妻ゆきゑ（注 25）と子どもたちは東雲の西谷邸に住むことができなくなり、苦難の生活を送ることになった。進の長女・明子（1919 年生まれ）は橋立で暮らし、1937（昭和 12）年に五代目庄八の妻・和喜が死去後、小樽へ転居した。明子は小樽で大家家をはじめ五代目庄八と親交が深かった船主たちからの支援を受け、大回漕店を創業し、庄八の弟・莊吉の西谷家を継ぐかたちで分家することになった。五代目庄八は生前、明子を分家させるように親交のあった大家七平らに相談しており、明子への支援と大回漕店の創設に尽力した（注 26）。

明子は 1941（昭和 16）年、西谷海運株式会社社員の水島弘と結婚するため、家を廃家とし、大回漕店を閉店し、売却益の半分を進の二男・正英に託したが、正英は 19 歳でフィリピンで戦死した。明子は、西谷家の歴史を後世に伝えるため、資料を収集し、多数の写真

帳や覚書を残した。

六代目正治の長男、七代目一正は、戦後、小樽から橋立に転居し、西谷家と小樽の関わりは一端途絶えたが、七代目一正は西谷家の資料の寄贈などを通じて再び小樽と関わるようになり、その縁は 2017 年度からの西谷家資料調査へとつながっている。

(3) おわりに

これまでの本稿の考察から、五代目庄八の時、小樽に進出した西谷家は、汽船による海運業、営業倉庫業、鉱山開発など、新たな業態への転換を図り、多くの失敗もあったが、回漕業を事業の中心としたことで、「東洋一の回漕店」と呼ばれるまで成長することができたといえる。また、五代目庄八は、西谷家と自らの歴史を後世に伝える意志を持ち、社史や回想録を多数残したことで、事業や小樽進出の経緯などについて北前船主自身の認識を知ることができる貴重な資料となっており、「北前船」「北前船主」という呼称が大正期以降に当事者によって自らとその事業を意味する用語として使用されるようになっていたことが確認できた。明治以降、「海運部」が成功し、「物産部」と両立できなくなったが、昭和初期にも江戸期以来の北前船交易の特徴である両方の事業へのこだわりを持っていたことが明らかになった。

西谷家は、故郷の橋立と小樽を行き来する生活を送っていたことで、事業以外にも小樽と様々なつながりを持っており、中村善策への支援など、経済面だけでなく文化的な影響をもたらしていたことが西谷家と小樽の関わりの特徴と言える。戦後、西谷家の遺産は小樽でも故郷の橋立からも見えにくくなったが、歴史資料の寄贈や調査を通じて、その価値が再発見されており、今後、日本遺産をはじめ様々な活用が期待される。西谷家資料には、西谷家および関連会社、小樽、橋立、支店の所在地である神戸や樺太など地域関連の資料が多数含まれており、本稿は西谷家のアウトラインを確認したにすぎない。今後、多角的な視点から調査研究を進めていくことで、小樽・北海道と北陸の交流史、「北前船」研究に新たな知見が得られると思われる。

謝辞：本稿の執筆にあたって、本瀬重夫氏、西谷静子氏、佐野禎子氏、西谷正也氏、橋立町の皆様、北海道北前船調査会、全国北前船研究会、加賀市文化振興課、石川県立九谷焼

美術館、資料調査ボランティアの皆様、家族に多大なご協力をいただきました。感謝申し上げます。

注釈

(1) 日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」。2017 年度に 11 市町、2018 年度に 20 市町、2019 年度に 7 市町が認定され、現在、45 市町で構成されるシリアル型の日本遺産ストーリー。小樽市は 7 件の構成文化財を認定しており、その一つが旧北浜地区倉庫群で、旧広海倉庫、旧小樽倉庫、旧大家倉庫、旧右近倉庫、旧増田倉庫の 5 棟が含まれる。本稿で取り上げる西谷庄八は旧小樽倉庫の建造者の一人である。旧広海倉庫、旧大家倉庫、旧増田倉庫は西谷庄八と同郷の石川県加賀市の北前船主、旧右近倉庫は福井県南越前町河野の北前船主によって建造され、全員密接な関係を持っていた。

(2) 北陸の北前船主の小樽での活動については、小樽市博物館（1990 年）が西出家、田島佳也（2004 年）が右近家・中村家、中西聡（2016 年 a）が大家家、中西聡（2016 年 b）が広海家、見附裕史（2019 年）が西出家・広海家・大家家について考察している。西谷家については先行研究がない。北前船寄港地としての小樽の特徴と北前船主については、高野宏康（2017 年、2019 年）が検討している。北海道の視点から「北前船」像を再検討する必要性については、土屋周三（2016 年）、が指摘している。建築史の視点から北前船主が建造した小樽の木骨石造倉庫については、駒木定正（2019 年）が考察している。

(3) 2011 年に加賀市が文書類の一部について調査を実施し、目録にまとめられている。

現在の枠組みでの共同調査は西谷家の資料全体を対象に、2017 年 11 月から 2020 年まで 7 回の調査が実施されている。調査成果の一部は「北前船」日本遺産認定記念講演会「北前船の遺産を活かしたまちづくり～北前船主・西谷家調査報告会～」(橋立地区会館、2018 年 2 月 22 日)で報告された。2018 年 7 月の調査では小樽の画家中村善策による西谷家 6 代目正治の妻貞子の肖像画が発見され、市立小樽美術館中村善策記念ホール開設 30 年・没後 35 年記念展「中村善策と小樽・風景画の系譜」(2018 年 10 月 26 日～2 月 24 日)で展示された。

(4) 「北前船」「北前船主」の定義や概念をめぐる議論については、牧野隆信（1989 年、2002 年）で論点が整理されている。近年では、濱岡伸也（2010 年）、が博物館展示との関連から「北前船」概念が曖昧に使用されがちであること、「北前船」「北前船主」の多様性を実証的に検証する必要があることなどを指摘している。濱岡伸也は、石川県立博物館平成 29 年度春季特別展「北前船と日本海海運」で上記の問題点を踏

まえた新たな北前船展示を行っている（石川県立博物館編、2017 年）。「北前船」の呼称と船型の関係については、石井謙治（1995 年）が論点を整理しており、近年では菅原慶郎（2019 年）が言及している。

（5）水島明子が収集した西谷家関連の資料は娘の佐野禎子が所蔵している。

（6）西谷家の海運創業 150 年は、その年（1920 年）から遡ると 1770 年にあたるが、同家では 1760（宝暦 10）年を創業年としている。1930 年に発行された西谷海運株式会社の広告パンフレットでは「170 周年」としており、訂正したものと思われる。

（7）後に同氏の著書『海商法研究』（第三巻、有斐閣、1931 年）に全文が収録された。

（8）カードの右には『法林の一生』編輯参考書」と書かれており、これは五代目庄八の自伝と考えられるが、書籍は確認できていない。

（9）西出志郎、西出亨『北前船・加賀橋立・西出家の系図、資料他』、私家版、2003 年。

（10）文書には「篠嶋」「篠島」「笹島」の 3 つの表記が見られるが、現在確認できる最古の文書である 9 代目西出孫左衛門の妻寿美が筆写した由緒帳（1870 年）の記載は「篠嶋」と記載されている。

（11）社史（1927 年）、には小樽に西谷支店を設置したのは 1887（明治 20）年とあるが、西谷海運株式会社の広告パンフレット（1930 年）では 1889（明治 22）年となっている。1931 年の壽像台座の碑文でも 1889 年となっており、1887 年は小樽進出に関連する何らかの事項の年代であるか、後に訂正された可能性があるが、本稿では 1889 年に統一した。

（12）西出志郎、西出亨編著（2003 年）。水島明子の覚書にも同様の説明がある。

（13）以下、西谷家と西出家についての情報は水島明子の覚書による。西谷家関係者の系譜については、西谷家の過去帳、戸籍、位牌メモを参照した。

（14）西谷庄八と中村善策の手紙の一部は七代目一正から市立小樽美術館に寄贈された。

（15）中村善策による貞子の肖像画については、注 3 を参照。

（16）六代目正治は、西谷家の関連会社を、フミナ協会（婦人問題）、公民同盟（労働問題）、帰一教団（万国平和問題）などの新生活運動協力会社組合として位置づけている。西谷家資料に関連資料がある。

（17）小樽倉庫を譲渡した理由は炭鉱事業の失敗によると推測されている。小樽市博物館（1990 年）、参照。

（18）西谷家が小樽に支店を開設した年代については、注 11 を参照。

（19）1987 年、七代目一正が小樽市博物館に寄贈し、現在は小樽市総合博物館運河館で展示されている。「小樽港実地明細図」（1893 年）、倉庫の工法と照らし合わせた結果、同倉庫の左右両端の一番倉と六番倉

はそれ以前の建築であることがわかった。『北海道新聞』（1987 年 10 月 1 日付）、『北海タイムス』（1987 年 10 月 1 日付）に寄贈関連記事が掲載。

（20）ラインゴールド号をめぐる顛末については「ラインゴールド号事件」として社史他で繰り返し言及されている。西谷家資料には同事件に関する同時代の記録文書がある。

（21）他の船主の支援については詳しい記述は確認できていない。

（22）同社は、日本郵船、大阪商船、西廻汽船商会、藤山汽船その他の船舶会社と連絡を保ち、海陸輸送上、特殊な便宜を有していた。出張店は小樽出張所（小樽駅前）と、手宮出張所（手宮駅前）の 2 ヲ所。

（23）明治以降、北前船主の海運業と物産販売の関係については、佐々木誠治（1961 年）が広海家を事例に考察しており、同家では小樽支店でのみ物産販売を長く継続していたことを指摘している。

（24）五代目庄八の胸像が破損したため作り直した際、小樽市に寄贈され、小樽市総合博物館運河館に展示されている。

（25）西谷進は 1918 年に五代目庄八の娘・正子と結婚したが、正子は 1920 年に死去した。後に西出義門の二女、ゆきゑと再婚した。

（26）西谷進の没後の家族の動向については、水島明子の覚書、その娘・佐野禎子氏、佐野氏の異母弟・西谷正也氏からのヒアリングによる。ご協力に感謝したい。

<参考文献>

1. 石井謙治『和船Ⅰ』ものと人間の文化史、法政大学出版局、1995 年。
2. 石川県立歴史博物館編『北前船と日本海海運（平成 29 年度春季特別展図録）』石川県立歴史博物館、2017 年。
3. 江沼地方史研究会編『加賀ふるさと人物事典』加賀市文化財総合活用事業実行委員会、江沼地方史研究会、2018 年。
4. 小樽市博物館編『第 44 回特別展 截金・その美と歴史～人間国宝 西出大三の世界～』小樽市博物館、1990 年。
5. 駒木定正「小樽倉庫の成り立ちと耐震調査」『小樽學』第 129 号、2019 年 12 月。
6. 佐々木誠治『日本海運業の近代化』海文堂、1961 年。
7. 市立小樽美術館『小樽の美術 中村善策と文学』市立小樽美術館、1984 年。
8. 菅原慶郎「明治期小樽における大型船の種類」『小樽學』通巻第 126 号、2019 年 9 月

- 号。
9. 高野宏康「北前船と小樽～北前船寄港地・小樽の歴史的価値～」『小樽商工会議所会報』2017年7月号。
 10. 高野宏康「旧小樽倉庫事務所」『小樽チャンネル Magazine』株式会社 K2、2017年12月号。
 11. 高野宏康「北前船と後志（五）～小樽にのこる北前船の遺産～」『BYWAY 後志』第22号。2019年9月。
 12. 田島佳也「北海道における北前船主・右近家、中村家の活躍と残像など」『北前船から見た地域史像 第6回「西廻り」航路フォーラムの記録』福井県河野村、2004年。
 13. 土屋周三「江戸期と明治期の北前船－北海道視点から－」『北前船にかかる論考・考察集』全国北前船研究会、2016年。
 14. 中西聡『海の富豪の資本主義 北前船と日本の産業化』名古屋大学出版会、2009年。
 15. 中西聡「汽船船主となった北前船主」『北前船にかかる論考・考察集』全国北前船研究会、2016年a。
 16. 中西聡『旅文化と物流 近代日本の輸送体系と空間認識』日本経済評論社、2016年b。
 17. 中西聡『北前船の近代史－海の手商たちが遺したもの－（増補改訂版）』成山堂書店、2017年。
 18. 中村善策『自伝抄 スケッチブック回想』読売新聞社、1983年。
 19. 濱岡伸也「北前船再考－研究と展示－」『石川県立博物館紀要』22、2010年。
 20. 本多貢「本邦初の倉庫業 事業家肌の豪傑 五代目西谷庄八」『北海タイムス』、1965年7月28日付。
 21. 牧野隆信『北前船の研究』法政大学出版局、1989年。
 22. 牧野隆信『北前船を語る』博文堂、2002年。
 23. 見附裕史「全国に残る加賀北前船主の遺産と4大船主の活躍」『海事交通研究』第68集、2019年。
 24. 棟方虎夫『小樽』、1914年。

「北前船」で読み解く小樽の歴史 《第1回》

北前船主・西谷家と小樽（その1） ～画家・中村善策と西谷家のつながり～

小樽商科大学 高野 宏康



中村善策による西谷貞子の肖像画。
1920年頃の作品。市立小樽美術館蔵。



旧小樽倉庫（明治23-27年築）



五代目西谷庄八（1860-1933）
52歳の頃の肖像写真。個人蔵。

たものである。

小樽には北前船の遺産が数多く残っており、平成30（2018）年には日本遺産に認定されている。その一つ、旧小樽倉庫を創設した北前船主・西谷家は、宝暦10（1760）年に橋立（現・石川県加賀市）で創業した老舗だが、明治20年代に五代目庄八が小樽へ進出後、大きく飛躍し、新たな業態への転換に成功した。回漕業や倉庫業等の経済面だけでなく、小樽出身の画家・中村善策を支援するなど、小樽の文化にも大きな影響を与えた。

平成30年7月、西谷家の資料調査で、善策による西谷家六代目正治の妻・貞子の肖像画が発見され、市立小樽美術館の展覧会「中村善策と小樽・風景画の系譜」（平成30年10月26日～2月24日）で展示された。善策の肖像画作品は点数が極めて少なく、貞子を描いていることは西谷家との関わりが深さが伺える。

善策は、小樽区堺小学校高等科、小樽実業補習学校を卒業後、大正5（1916）年、15歳

昭和3（1928）年、善策は郷里の先輩の勧めで結婚し、小樽の若竹町に新居をかまえた。この新居は西谷家五代目庄八により、かつて同社所有の工場だった空き家を借り受けたもので、小樽築港駅のすぐ近くにあった。同年夏、この家からの展望を描いた「北国風景」が二科展に入選し

で西谷回漕店に入社した。同社で働きながら、三浦鮮治の主宰する小樽洋画研究所に通い、本格的に絵画を学び始めた。同7年、神戸支社への転勤のため絵画修行は2年ほどで中断したが、神戸での4年間、善策は小樽洋画研究所の展覧会に出品を続けている。この頃、善策は六代目正治と絵画について頻りに手紙のやり取りをしている。正治は善策が少年の頃から才能を認め、様々な援助を行っていた。

善策が画家になるために上京を決意する直前の半年間、小樽高商へ向かう地獄坂の脇に入る山道を登りつめたところにある虎杖の生い茂る山荘に籠もり、絵画に没頭した。この山荘は正治が厚意で提供したものである。半年間、「描いて描いてかきまくった」善策は、疲れた時は正治からもらった文学書や詩集を読みふけた。同13年、家出同然で上京した善策は、先輩の小樽で活躍した彫刻家・中野五一の世話になりつつ、翌年、二科展に初入選。さらに翌年には一挙3点入選を果たした。この3点は山荘で描い

た。当時、近所に小林多喜二が住んでおり、善策の家を頻りに訪れ、親交を深めた。多喜二の実家のパン屋からは毎日パンが届けられていた。六代目正治は父五代目庄八に反発し、同家の海運業は衰退していったが、善策たち小樽の芸術家を理解し、支援した。善策の絵画は、北前船主と小樽の文化のつながりを象徴する遺産の一つといえる。

【参考文献】

高野宏康「小樽に進出した北前船主・西谷家」『人文研究』第138・139号、小樽商科大学、2020年3月。
中村善策『自伝抄 スケッチブック回想』読売新聞社、1983年。

【プロフィール】

高野 宏康
小樽商科大学グローバル戦略推進センター
学術研究員。博士（歴史民俗資料学）。
1974年、「北前船の里」で知られる石川県加賀市橋立町生まれ。明治大学卒。神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究所博士後期課程修了。小樽市地域型日本遺産ストーリー検討WG委員、北前船子どもフェリー使節団実行委員会事務局長、おたる案内人マイスター。

日立特約店
三立機電株式会社
小樽市色内2-10-1
TEL 22-1121

<時計と貴金属>
アラ井時計店
小樽市花園3丁目2-2 ㊟3304

<特定建設業・一級建築士事務所>
(株)福島工務店
小樽市若松1-7-18
TEL 23-3542(代)

(有)小樽分析工業所
小樽市色内2-16-8
TEL 22-3855

<食肉 ハム>
株式会社 **肉のなかせ**
小樽市有幌1-11
TEL 32-5652

JXTGエネルギー特約店
三菱商事エネルギー特約店
株式会社 **荒田商会**
本社／小樽市松ヶ枝1丁目32番6号
TEL.0134-23-6261 FAX.0134-34-1614

加賀市の小学生
4・5・6年生の皆さん



きたまえぶね

北前船 子ども 洋上セミナー

ようじょう



平成31年度 北前船
日本遺産記念事業

参加者
募集!



今年の夏休み、豪華クルーズ船に乗って北海道まで旅をしませんか。

船の中では「北前船」のことを学んだり、楽しいクイズやゲームをして過ごします。

また、北海道小樽では、加賀の北前船主たちがつくり上げた
大きな建物を見学したり、小樽の子どもたちと交流します。



豪華なエンタランスホール

男女別の大浴場のほかに
露天風呂があります。

おたる潮まつり

2019年

実施日

7月25日(木)~27日(土)

定員

28名 (小学4・5・6年生なら兄弟・姉妹でも可)

※但し、申込み多数の場合は抽選となりますので、予めご了承ください。

申込期限

2019年4月25日(木)

参加料

ひとり2万円

※3日間の交通費・宿泊費・食事代のすべてが含まれます。

参加申込方法

裏面の参加申し込み用紙に必要事項をご記入いただき、
加賀商工会議所内「北前船洋上セミナー係り」まで
申込期限までにご提出下さい。

快適な船旅を「らべんだあ号」で

※姉妹船「あざれあ号」となる場合もあり

豪華クルージング船「らべんだあ号」や「あざれあ号」は、いずれも新日本海フェリー株式会社が運航する船で、新潟と小樽を結ぶ定期航路を往来しています。雄大な海を眺めながらの露天風呂や展望デッキで限りなく広がる大海原を眺めながら、往時の北前船の船乗りになった気分を味わっていただけます。また、昼食、夕食、朝食の3食ともに、船内のレストランで美味しい食事をご用意します。夜は、男女別の2段ベッドでゆっくりと就寝することができます。

主催：北前船子ども洋上セミナー加賀実行委員会（会長 加賀商工会議所会頭 新家康三）

共催：全国北前船研究会・加賀橋立北前船の里保存会・加賀商工会議所青年部

後援：加賀市・加賀市教育委員会・加賀商工会議所・山中商工会・北國新聞社・テレビ金沢・加賀ケーブルテレビ

協賛：加賀市都市交流協議会・加賀市観光交流機構・加賀電機振興協会・加賀市地物協同組合・加賀市PTA連合会・

加賀市各種団体女性連絡協議会・加賀市女性協議会・江沼地方史研究会・みにキネマ加賀・加賀白山ロータリークラブ・

加賀中央ロータリークラブ・加賀ロータリークラブ・山中ロータリークラブ・加賀ライオンズクラブ・

(公社)加賀青年会議所・北海道北前船調査会・小樽商科大学ほか

小樽運河

◆洋上セミナー実行委員会事務局 加賀商工会議所青年部 加賀市大聖寺菅生口17-3

☎0761-73-0001 FAX 0761-73-4599

※事業内容のお問い合わせ先

全国北前船研究会事務局 加賀市山代温泉北部1丁目222

☎0761-77-2002(見附) 詳しい行程表は裏面をご覧ください

【事業協力】

2019年(令和元年)06月13日(木曜日) 北海道新聞 朝刊 地方 小樽・後志 17ページ



北前船が縁 加賀と交流事業 児童相互訪問へ実行委

小樽で設立

北前船の寄港地・船主集一定された縁を生かそうと、落として共に日本遺産に認一石川県加賀市と子ども同士の

の交流事業を行う小樽市内の有志は12日、市総合博物館で実行委員会設立会合を開いた。来年夏に予定する小樽の小学生の加賀訪問などを企画・運営する。実行委は小樽の観光関連企業や団体の代表、民間の子ども同士の交流事業に関する実行委員会の設立会合

研究者や市の日本遺産担当者などの28人で構成。会長には小樽観光協会の西條文雪会長を選んだ。

交流事業は「北前船子ども洋上セミナー」。加賀商工会議所などで行う加賀の実行委と小樽の実行委が共同で、まず今年7月25、27日に加賀の小学生がフェリーで小樽を訪れる「下り船編」を実施。来年7月か

8月には小樽の小学生が加賀を訪問する「上り船編」を行う予定で、今年9月をめどに計画をまとめ、小樽からの参加者を募集する。

実行委は無償の事務局スタッフを募集している。問い合わせは事務局長の高野宏康・小樽商科大学術研究員 ☎080・5423・7658へ。

(西依一憲)



10th

夏の
小樽
に
お
こ
し
や
す

小樽堺町通り商店街

ゆかた風鈴祭り

令和元年 八月三日(土)/八月四日(日) 会場 小樽堺町通りメルヘン広場

第10回
特別企画

小樽太夫道中～小樽花街物語～

特別協賛：人力車えびす屋小樽

- 8月3日(土) 18:00～ 花園太夫道中 会場 花園ピアガーデン
- 8月4日(日) 13:00～ 太夫道中「いにしえ」..... 会場 旧三井銀行小樽支店(小樽芸術村)

※入館料：一般500円/3歳未満2,000円(中学生以下無料)

- 8月4日(日) 15:00～ 小樽太夫道中 会場 小樽堺町通り商店街

優勝賞品は
京都の旅!

ゆかたコンテスト

小学生以下の部 8月3日(土) 13:00～13:45 会場 メルヘン広場

一般の部 8月4日(日) 13:15～14:00 参加無料!!

小学生以下の部 優勝賞品は おもちゃ券3万円分!!

※イベント内容、開始時間などは変更になる場合があります。

イベントの
詳細はこちら



第2回 ～ちょっと小樽でハイカラさん～

おたる浴衣ウエーク

豪華景品があたるインスタキャンペーンも >> おたる浴衣ウエーク | 検索

開催期間

7月26日(金)
～8月4日(日)

第53回

おたるまつり

- 7月26日(金) 開祭式、潮ふれこみ、道新納涼花火大会 他
- 7月27日(土) 潮ふれこみ 他
- 7月28日(日) みこしパレード、道新納涼花火大会 他

詳しくはこちら >> おたるまつり | 検索

主催：小樽堺町通り商店街振興組合 お問合せ：小樽堺町ゆかた風鈴まつり実行委員会 TEL.0134-27-1133 <http://yukata.otaru-sakaimachi.com/>
後援：小樽市、小樽商工会連所、(一社)小樽観光協会、北海道中央バス㈱、北海道新聞小樽支社、小樽港町会 協力：株式会社ニトリ 小樽芸術村、小樽商科大学 翔栄舞、小樽笑店、小樽アカペラフェスティバル実行委員会
※小樽太夫道中は、日本遺産ストーリー「荒波を越えた男たちの夢が訪いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の小樽市追加認定を記念して実施します。

【講演】

北前船船上講座開催のご案内



日本遺産

「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間
～北前船寄港地・船主集落～」認定記念

と き：令和元年8月26日（月）午前の部、午後の部

会 場：新日本海フェリー
あかしあ コンファレンスルーム

演 題：「北前船の魅力～北海道と各地のつながり～」

講 師：国立大学法人 小樽商科大学
グローバル戦略推進センター
研究支援部門 地域経済研究部
学術研究員 高野 宏康 氏

本日、皆様が乗船されたフェリーの航路は、江戸時代から明治時代にかけて北前船と呼ばれる船が行き来していました。一攫千金の夢を追い、動く総合商社と呼べるほど、ありとあらゆる物を各地に運んでいました。

その北前船の魅力を知ってみませんか。



KITAMAE-BUNE

お問合せ先：小樽市産業港湾部（日本遺産等担当）TEL0134-32-4111 内線319

深掘り

炭鉄港と 小樽

空知の石炭を小樽港に運んだ旧国鉄手宮線の跡地には現在、約1.6kmの散策路が整備され、多くの市民や観光客に親しまれています。ただ、整備の過程で線路の一部が取り払われそうになる「危機」もありました。

1985年の手宮線廃線後、官民一体で跡地利用が検討され、路面電車の走行を目指す案と散策路とする案の2案が出ました。市は費用面から散策路の案を採用し、2001年には道小樽海岸公園線（通称・中央

③ 観光資源としての旧手宮線 線路保存し散策路整備

通の拡幅に伴い「車両通行の支障になる」として線路を20m撤去する方針を示しました。

これに対し、旧手宮線を近代化遺産と位置づけて観光活用を



市民団体が主催した、旧手宮線を歩くスタンプリーのひとこま。廃線後は官民で活用策を採った。1995年11月

求める市民団体が「線路はつながっているからこそ意味がある」と反発。数回の協議を経て、市は撤去計画を撤回しました。線路がそのまま保存されたことには大きな意義があります。

散策路は17年に開通し、中心部に偏りがちだった小樽の観光散策エリアを北運河や市総合博物館本館（手宮）にまで広げました。旧手宮線は18年度に北海道遺産に選ばれ、その価値が再認識されました。今後は日本遺産「炭鉄港」の構成遺産として、空知とのつながりを活かした広域観光や連携が課題です。

（高野宏康・小樽商科大学学術研究員）

◇
毎月最終金曜日に掲載します。次回は9月27日の予定です。

【講演】

食関連産業で求められる人材育成講座

“即戦力”セミナー！ SNS！接客！ほか

**参加
無料**



奥青山プロダクション 北海道観光大使
フリーアナウンサー 北海道フードマイスター
青山 千景 氏

vol. **7**

01 SEMINAR

初心者にもすぐできる
SNS集客

2019年

9月4日 (水)

10:00～12:00

会場 小樽経済センター4F
(小樽市稲穂2丁目22番1号)

講師

(有)ウェブプロモート
ディレクター/デザイナー

上木 加織 氏

02 SEMINAR

スマートフォン
カメラで写真を
魅力的に撮るには

2019年

9月11日 (水)

10:00～12:00

会場 小樽経済センター4F

講師

スタジオフォトス
フォトグラファー

濱田 剛 氏

03 SEMINAR

“食品衛生管理”を
知って明日から
守るべきことは

2019年

9月18日 (水)

10:00～12:00

会場 小樽経済センター4F

講師

奥青山プロダクション 北海道観光大使
フリーアナウンサー 北海道フードマイスター

青山 千景 氏

04 SEMINAR

プライベートでも
使える!!プロの接客
アレコレ

2019年

9月25日 (水)

10:00～12:00

会場 小樽経済センター7F

講師

奥青山プロダクション 北海道観光大使
フリーアナウンサー 北海道フードマイスター

青山 千景 氏

05 SEMINAR

小樽の歴史を
活用した食関連の
商品開発

2019年

9月30日 (月)

10:00～12:00

会場 小樽経済センター4F

講師

小樽商科大学グローバル戦略推進センター
研究支援部門地域経済研究部
学術研究員 博士(歴史民俗資料学)

高野 宏康 氏

受講を希望する方は、TEL、FAX、MAIL、協議会HP内の問合せフォームよりお申込みください※駐車スペースがございませんので、公共交通機関をご利用ください。

主催

小樽地域雇用創造協議会(事務局 小樽市産業港湾部商業労政課)

TEL. 0134-31-7881 FAX. 0134-31-7882 MAIL info@otaru-koyou.jp HP http://otaru-koyo.jp

詳しくはこちらから

小樽地域雇用創造協議会 検索



構成
団体

小樽市、北海道後志総合振興局、小樽商工会議所、(一社)小樽物産協会、(一社)小樽観光協会、
小樽商科大学、(一社)北海道中小企業家同友会シリベシ・小樽支部

この事業は、「厚生労働省委託事業・実践型地域雇用創造事業」として実施されます

【事業協力・講演】

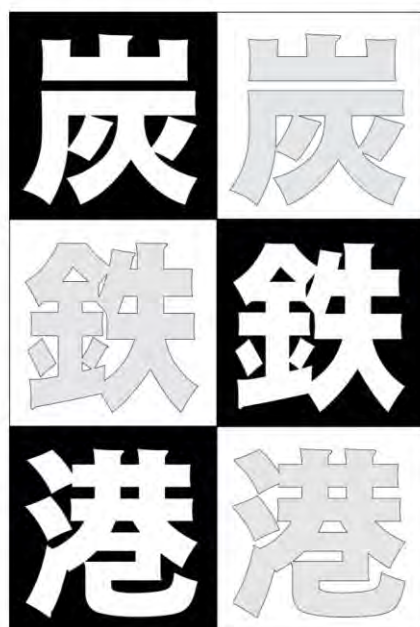


JAPAN HERITAGE

日本遺産

祝 日本遺産認定 顔顔市VI 特別講演

ガンガンギャラリーにて開催！！
(中央市場3棟)



10月17日(木) 13:00～14:30



小樽市総合博物館 館長
石川 直章 さん

Profile

静岡県浜松市出身。
二俣線(現在の天浜線)を眺めて育ち、鉄道好きに。
同志社大学・大学院で考古学を専攻、北海道の
先史時代を研究する。同志社の教員などを経て、
学芸員として小樽市に勤務して25年。
考古学の研究を続けている。



小樽商科大学
グローバル戦略推進センター
学術研究員 高野 孝康さん

Profile

石川県加賀市出身。
明治大学卒。神奈川大学大学院博士後期課程修了。
博士(歴史民俗資料学)。専門は近現代史、地域資源
論。小樽商科大学本気プロディクター、小樽梁川
商店街活性化委員会などを務め、中央市場界隈の活
性化に関わる。

10月18日(金) 13:00～14:30

Profile

赤平市出身。北海道大学法学部卒。
札幌篠路高校教諭等を経て、現在藤女子大学・
札幌大谷大学非常勤講師。まち文化研究所主宰。
銭湯倶楽部代表。町並み、商店街、銭湯、市場、
食堂、地域雑誌などの「まち文化」を研究。



まち文化研究所
主宰 塚田 敏信 さん

入場
無料

主催：小樽中央市場協同組合 (小樽市稲穂3丁目11-2 TEL22-5384)

協力：小樽市 国立大学法人小樽商科大学

小樽都通り梁川商店街振興組合 株式会社K2

小樽市総合博物館 まち文化研究所 佐藤 通晃

小樽中央市場
ガンガン部隊

【事業協力・講演】

小樽中央市場

お客様の笑顔。市場の笑顔。

顔顔あ

ガンガンバザール

第6回

2019年10月15日(火)～19日(土)

特価品大売出し15日・16日

※詳細は裏面をご覧ください

祝 日本遺産認定記念

炭鉄港 顔顔市VI 特別講演

ガンガンギャラリーにて開催! (中央市場3棟) **入場無料!**

17日 炭鉄港
13:00～14:30
～なぜ中央市場が日本遺産に選ばれたのか～

石川 直輝さん
小樽市立博物館学芸員

18日 小樽中央市場とガンガン部隊
13:00～14:30
～市場の可能性 各地の市場を歩く～

塚田 敏信さん
小樽市立博物館学芸員

ガンガンギャラリー

炭鉄港 ～小樽の市場、鉄道、港の歴史～

2棟にて写真家による写真展**オタルクスガタ**～炭鉄港にわいた小樽～も開催!
★2棟にてBook Art Week 古本市も開催中!

17日・18日

時間 12:00～

販売場所 2棟

常場でお買物をされたお客様!!

ガンガン丼 500円!

各日限定 100食

1店舗200円以上お買上げのお客様に購入補助券を1枚差し上げます。

※数量限定の品類(炭鉄港)は抽選で先着の順にのみお買求めいただけます。
購入補助券は当日の抽選券を提示してご利用いただけます。
※お1人様1枚までのお買上げです。お写真はイメージです。

19日

抽選場所 特別抽選会 市場2棟

抽選時間 10:00～16:00

豪華賞品が当たる!!
市場の目利き! 大抽選会!

※全額に問わず200円以上の利用し上げ1回につき1枚のみ抽選券を差し上げます。
※抽選は1日1回です。
※抽選は抽選券を提示して参加してください。
※抽選は抽選券を提示して参加してください。

ガンガンクイズ

このガンガン部隊の女性がかつて 実際に持って 予選しよう!

このガンガン部隊の女性がかつて 実際に持って 予選しよう!

答え 100.5kg

正解の方に 5,000円相当海産物を プレゼント!

抽選方法
応募者3名に抽選券1枚に みるに抽選券に記入の 必要事項を記入の上 抽選してください

抽選券は炭鉄港の海産物を3つ購入し応募してください。
抽選券は炭鉄港の海産物を3つ購入し応募してください。

専用駐車場をご利用ください

小樽中央市場協同組合

小樽市堀越3丁目11番2号

TEL (0134) 22-5384

<http://otaru-market.com/>



石狩市/石狩灯台

「北前船往来」
日本の繁栄と近代化を支えた絆をふたたび

北前船 寄港地 フォーラム

in 北海道
小樽・石狩

小樽市/日和山灯台

小樽市/鎌御殿

第28回

2019
10/19 土曜日

セミナー	交流会
時間 13:00～17:00 場所 ウイングベイ小樽内 イオンシネマ小樽	時間 18:30～20:00 場所 小樽朝里 クラッセホテル

2019
10/20 日曜日

小樽市から石狩市への バス移動研修 (1コース)	フォーラム	レセプション
時間 8:00～12:00 場所 祝津パノラマ展望台・ 石狩湾新港・ 道の駅石狩「あいろーど厚田」	時間 13:20～17:30 場所 石狩市花川北 コミュニティセンター	時間 18:30～20:00 場所 シャトレーゼ ガトーキングダム サッポロ



北前船主が建てた旧大家倉庫

【主 催】北前船寄港地フォーラム in 北海道小樽・石狩実行委員会
【共 催】小樽市・石狩市・一般社団法人北前船交流拡大機構

お問い合わせ 株式会社日本旅行北海道 小樽支店
TEL:0134-33-4455 FAX:0134-33-4465 E-mail:kitamaebune_hokkaido@nta.co.jp



KITAMAE-BUNE

【事業協力・オンライン講座】

17

地域の話

小後

2019年(令和元年)11月1日(金曜日)

北

講座に出演する高野さん(左)と
きいさん



北前船の寄港地や船主集落として
日本遺産に認定された全国45市町な
どでつくる北前船日本遺産推進協議
会は1日、インターネットを使った
個別学習システム「eラーニング」
で北前船の歴史を学ぶ講座を始め
る。講師は小樽商科大の高野宏康学
術研究員(歴史民俗資料学)。1回

北前船 ネットで学んで

オンライン講座 きょう公開

日本遺産推進協 樽商大・高野研究員が講師役

10分程度の動画30回を順次公開
し、来年3月まで誰でも無料で聴講
できる。

NTTドコモの子会社ドコモga
cco(東京)が運営する大規模公
開オンライン講座「gacco(ガ
ッコ)」のカリキュラムの一つとし
て開講。「学べばわかる北前船 一
獲千金の夢とロマン、人・モノ・文
化の交流史」と題し、高野さんと、
首都圏で活動する現役女子大生の動
画クリエイターきいさんが出演し対
話形式で行う。

講座は①北前船の基礎知識②全国
の寄港地・船主集落の紹介③北前船
が残した文化と地域振興に生かすヒ
ントーを主なテーマとした3章構成
で、11月の1日、8日、15日に10回
分ずつ公開。来年3月末までパソコ
ンやスマートフォンで好きな時間帯
に視聴できる。

高野さんは「初心者も既に知識を
持っている人も、北前船の全体像を
楽しく学び、新しい発見をしてもら
いたい」と話す。受講にはガッコのサ
イト(<https://gacco.org/>)で登録
が必要。問い合わせは同社03・
3456・1200へ。(西依一憲)

【事業協力・講演】

初登場

奥土産産 石巻パン工房 (ニセコ)



自家製塩のライ麦やカボチャ等の
食材と天然酵母をブレンドし
「新登場」の「石巻」のパンで
しっかり焼き上げています。
●ライ麦パン……………¥590
●完熟かぼちゃのパン……………¥501

ニセコファーム・フルーツファクトリー (ニセコ)



ニセコ産の原料・素材をふんだんに
使用しました。
●アップルパイ……………¥324
●シフォンケーキ……………¥238
●レアチーズケーキ……………¥702

FRUTICO 余市 (余市)



西た麻地のベリーともちもち生地で、
そしてクリームたっぷりの
スペシャルVer!!
●Wベリークレープスペシャル……………¥650

山本観光果樹園 (余市)



当園の大ヒット商品です!!
ひと工夫もふた工夫もされた
特製のアップルパイ。当園で収穫
したふじりんごを使用してい
ます。りんごの本来の甘さを逃し
なくください。食べ応え抜群です!!
●アップルパイ……………¥300

真狩高等学校 Lamikka (真狩)



野菜製菓コースの生徒が作り
ました。真狩村の特産品、高級
食材の「ゆり根」をふんだんに
使用したモンブランです。
●ゆり根モンブラン……………¥300



デコレーション
ケーキづくり体験
発泡スチロールのれいスポンジ
型にショートニングオイルを生
クリーム状に仕立てて塗ってい
く行程を体験、記念撮影します。

北海道後志総合振興局プロデュース (日替 物産と観光コーナー)

11/29(金) 石巻パン工房 (ニセコ)



11/29(金) ロバのマフィン (真狩)



11/30(土) 12/1(日) Pikkini (ニセコ)



11/30(土) 梅屋 (鹿角郡)



12/1(日) 藤岡果樹園 (仁木)



『北前船と炭鉄港から見たスイーツの魅力』



小樽市の日本遺産認定記念
パネル展&トークイベントを開催
明治2年に北海道と命名され、その重要
拠点となった小樽は急速な発展を遂げ
ました。その背景には、小樽のニシンを
本州各地に運び、生活物資や文化をもた
らした「北前船」があり、そして明治12年
以降「石炭」「鉄鋼」「港湾」とそれら
を繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り上げられた北
の産業革命と言われている「炭鉄港」が
あり、小樽市はその2つの日本遺産ス
トリーに認定されました。
今回はそれらをパネルで紹介し、地域ス
イーツとの結びつきを探ります。



スイーツ特別販売 (数量限定)

【空知から】
石炭かりんとう・炭炭餅・
石炭まんじゅう・石炭カステラなど
【室蘭から】
鐵の素クッキー・ジンギスカン鍋
クッキー (小から特大まで)

※掲載の商品以外にも各店で多数取り揃えておりますが、当日販売商品の変更、売り切れの際はご容赦願います。※表示価格は軽減税率8%込の価格です。お支払いは現金のみとさせていただきます。

■主催:otaruスイーツフェスタ実行委員会【事務局:(株)ホープ・ワン 小樽市築港11番5号 Tel:0134-31-1311】
■後援:北海道菓子工業組合小樽支部、小樽菓子生産会、小樽洋菓子協会、北海道後志総合振興局、小樽市、小樽商工会議所、小樽観光協会、小樽物産協会、(株)エフエム小樽放送局、(株)小樽ペイジティ開発、小樽商科大学 学生サークル小樽美店、(株)ホープ・ワン
■協賛:北海道信用金庫、小樽銀行協会 (北洋銀行・北海道銀行・北陸銀行)

初登場

砂川果樹園 (余市)



余市産の産物「色花みどり」上足な味わいの
特産「アカシアみつ」を生はちみつを原料に
使用した「ハチミツ」がご賞味ください。
●生はちみつスッパッシュ……………¥500
●余市産天然はちみつ各種……………¥1,050~

結果本郷 梅月 (網走安)



●ダチョウの卵プリン……………¥300
●ダチョウの卵のどら焼き……………¥185
●ダチョウの卵焼きクレープ……………¥250

本間製菓 (共和)



ニセコ産の米粉をたっぷり使用
したモチモチのたい焼きです。
●ニセコ産米粉たい焼き……………¥160
●雷電だんご……………¥324

永沼農場 Cafe Linn Forest (鹿角川)



自家製産物のカボチャ、有精ブルー
ベリーをふんだんに使った濃厚スイーツ。
商業だからこそのお値はリーズナブルです。
●カボチャプリン……………¥390
●ブルーベリー・カボチャ……………¥390
●カボチャ・ブルーベリー……………¥280
●ブルーベリー・カボチャ……………¥280

fruit labo Petit domaine 仁木 (仁木)



仁木のりんごを使った、しっとり
フワフワのシフォンケーキです。
●りんごシフォンケーキ……………¥550
●さくらんぼ・バウンドケーキ……………¥550

三田牧場 (共和)



創業1907年北海道産物三田牧場。
美味しいアイスクリームは健康な牛から
広大な牧場でストレスなく自由に放牧で
得た牛の乳をたっぷり使ったアイスク
リームに「100%北海道産アイスクリーム」を
保証します。
●MITA ICE (各種)……………各¥350
●牧場ソフト (130g)……………¥400

特別出品 山本観光果樹園 (余市)

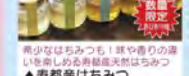


手摘みと新鮮な素材。たくさん
のりんごを詰めこんで焼かれた
りんごを堪能、ご賞味ください!!
●りんご……………¥300

寿都観光物産協会 (物産と観光コーナー)



●寿都観光物産協会……………¥500~
●海老太郎……………¥125



●千代庵菓子舗……………¥590
●若狭屋老舗……………¥230

千代庵菓子舗



11/29(金) FMおたる公開生放送 (会場ステージ)

●15:00~ / otaru スイーツフェスタ開会式
●15:05~15:30 / 日本酒産トークイベント
テーマ:北前船と炭鉄港から見たスイーツの魅力
司 会:村岡 啓介 氏 (FMおたる総合プロデューサー)
ゲスト:高野 宏康 氏 (小樽商科大学グローバル戦略推進センター
学術研究員、歴史民俗資料学博士)
吉岡 宏高 氏 (NPO法人北前船の記憶推進事務局、札幌大学教員)
櫻井 美香 氏 (小樽市総合博物館 学芸員)

「知産志食しりべし」スタンプラリー

otaruスイーツフェスタ2019会場に
スタンプを設置しております。
この機会にどうぞご利用ください。

小樽地域雇用創造協議会

新商品開発事業の試食アンケートを実施します!【菓子部門】
「水産部門」の2商品で実施。あなたの意見が今後の商品開発に
活かされます。ぜひともブースにお立ち寄りください。

【講演】

学ぶ・楽しむ・冬あたる!

石川啄木

リアルとフィクションのはざま 全4回 **NEW** 短期

清貧で親しいの薄幸な歌人から、いいかげんで自己中心的な青年へ…戦後七十余年で、啄木ほど評価の振れ幅が大きかった文学者も珍しいのではないのでしょうか。その存在はある意味、各時代の〈文学青年観〉を映す鏡であったと思われます。啄木像の変遷の秘密を、彼をテーマとした映画・演劇・小説などを通して探ります。



【講 師】市立小樽文学館 主幹学芸員 亀井 志乃
【日 時】金曜13:30～15:30
【受講料金】7,360円(1月～2月/4回分、教材費込)

- 1/10(金)〈伝記〉はフィクションの出発点
- 1/24(金) 啄木自身の自己像創作劇
- 2/ 7(金) 映画・演劇の中の啄木 ―漂泊の歌人から〈ろくでなし〉まで
- 2/21(金) 啄木・金田一が探偵に? ―啄木像、新時代へ



知られざる栄華の物語と遺産 北前船と小樽 全3回 **NEW** 短期

「北前船」日本遺産に追加認定された小樽市。小樽へ進出した北前船主たちの知られざる人物像、小樽での活動、文化的影響、小樽のルーツとの関わりなどについて、最新の調査成果に基づき、詳しく解説します。

【講 師】小樽商科大学グローバル戦略推進センター
学術研究員 高野 宏康
【日 時】第2土曜13:00～15:00
【受講料金】6,270円(1月～3月/3回分)



良運丸の勇姿



旧小樽倉庫



西谷家資料調査の様子



西谷庄八夫妻の銅像

- 1/11(土) 小樽へ進出した北前船主たち
～人物像、進出の経緯、小樽での事業の実態～
- 2/ 8(土) 北前船と小樽の文化
～芸術、民俗芸能や食文化、歴史的建造物との関わり～
- 3/14(土) 北前船と小樽のルーツ
～移民はどこから、菓子店や銭湯、銀行など店舗や企業～

受講生
募集中!!

無料配布中

最新のチラシ

お気軽にお問合せください



彼らには未来が見えていた 小樽の名建築を 築いた棟梁たち **NEW** 短期 全3回

明治から昭和にかけて、高度な建築技能と優れた統率力をもち、人望を集めた棟梁によって、小樽の名建築が築かれ、守られてきました。彼らの心意気が建物に伝わっている様子をエピソードとともに解説します。

【講 師】駒木定正建築史研究所代表 駒木 定正
【日 時】第3土曜13:30～15:00
【受講料金】7,020円(1月～3月/3回分、資料代込)



近藤 龍夫



水天宮



加藤 忠五郎



飯平(やぶはん)

- 1/18(土) 「北海道随一の宮大工・伊久治三郎」
- 2/15(土) 「一流建築家と四つ相撲・加藤忠五郎」
- 3/21(土) 「昭和の保存と再生を指南・近藤龍夫」

小樽道新文化センター

小樽市稲穂2丁目8番4号 北海道新聞小樽支社 4階

お問い合わせ・お申し込み

☎0134(23)1700

受付時間 9:30～18:30 土曜17:30まで(日・祝日休み)

インターネットで講座予約もできます

市「Google」で検索してください。

道新文化センター

検索

<https://www.doshin-co.com/>

小樽道新文化センター
Facebook公式ページを
ご覧ください



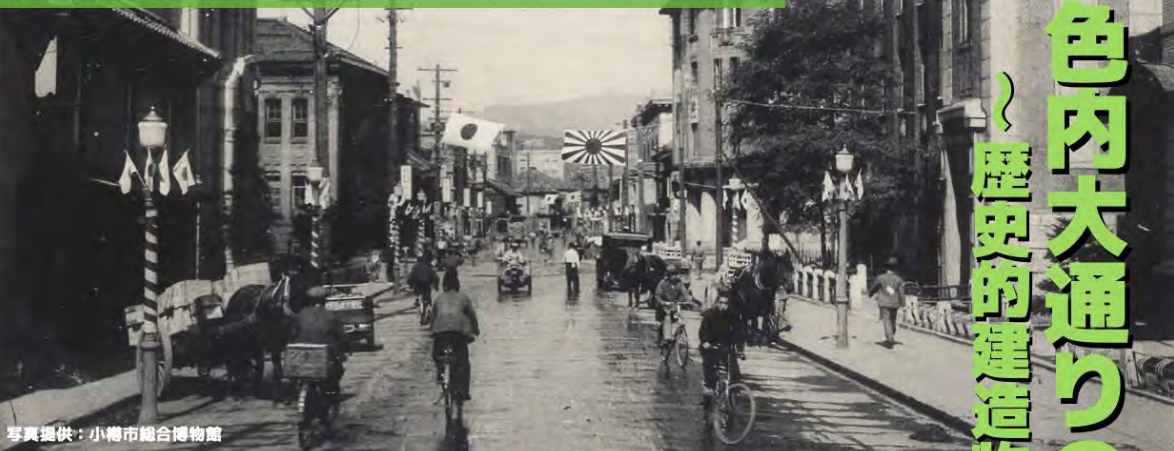
開催中の講座の様子や、おすすめの講座の
ご案内など、旬の情報をお伝えします

Facebookページ二次元コード ▲

●お電話で空席状況をご確認の上ご予約ください。ご予約から10日以内に入会金を添えて受講料をお支払いください。●新規ご入会の方は、一部講座を除き入会金2,200円(18歳以下と70歳以上の方は、1,100円)が必要です。●【受講料金】各回の金額には受講料と施設使用料が含まれています(一部講座を除く)。また、受講料金の他に教材費や備品代など追加の費用がかかります。●広告表示金額は消費税込の金額です。●納入済みの入会金と受講料金は、原則としてお返しできません。予めご了承ください。●広告掲載時に定額に達している場合もございます。お早目にお問い合わせください。

【イベント主催】

小樽商大 グローカルプロジェクト「日本遺産による小樽の歴史文化の広域観光資源化」
トークセッション



写真提供：小樽市総合博物館

基調講演

「大正初期と現在の色内大通りの建築
一棟方虎夫『小樽』(大正3年)を基本資料として」

駒木 定正氏 (北海道職業能力開発大学校特別顧問・駒木定正建築史研究所)

パネルディスカッション

「色内大通りの魅力と可能性」

澁谷 憲三氏 (株式会社澁谷建設 代表取締役)

青木 雄二氏 (小樽和菓子工房 游菓 代表)

中源 博幸氏 (小樽石蔵CAFE BAR & HOSTEL 「石と鉄」 店長)

落合 亮 氏 (小樽商科大学写真部・北前カナルプロジェクト代表)

【コメント】

駒木 定正氏 (北海道職業能力開発大学校特別顧問・駒木定正建築史研究所)

【司会進行】

高野 宏康氏 (小樽商科大学グローバル戦略推進センター学術研究員)

色内大通りの魅力と可能性
～歴史的建造物を活かすまちづくり～

日時 ▶ 2020年1月20日(月) 18時半開始

会場 ▶ 小樽石蔵CAFE BAR & HOSTEL 「石と鉄」 (小樽市色内2-2-8)

参加費 ▶ 要事前申込み 定員30名 1ドリンク制
(ドリンクセット 700円(税込): 游菓のお菓子和「石と鉄」のソフトドリンクのセット)

申込先 ▶ MAIL: htakano0406@res.otaru-uc.ac.jp
FAX: 0134-27-5483 TEL: 080-5423-7658

色内大通り
カレンダー
2020
会場にて販売

主催 小樽商科大学グローバルプロジェクト「日本遺産による小樽の歴史文化の広域観光資源化」
共催 色内復興会、北前カナルプロジェクト

【イベント主催】

2020年(令和2年)01月22日(水曜日) 北海道新聞 朝刊 地方 小樽・後志 16ページ

古い石蔵を活用した「石と鉄」の店内で開かれたシンポジウム



歴史、景観生かし小樽活性化

経営者らまちづくりシンポ

色内大通りは明治・昭和初期に鉄道の起点として栄えた主要地区と旧銀行街をつなぐ市道の通称。沿道には日本郵船小樽支店など、市が来年度の認定を目指す文化庁の地域型日本遺産の構成文化財も多い。北海道産業能力開発大学校特別顧問で市日本遺産推進協議会委員の駒木正志さんが基調講演。歴史的建造物に対する観光客の認識について「なんとなくすごい」と思いつが、それが何なのかいまいちつかない」と問題提起し、個々の文化財を物語で結びつけて発信する意義を説いた。京都などで自動販売機やコインパーキングの看板が落ち着いた色内が抑鬱されていることに触れ、「今は京都でできて小樽ではできないのか。(自動販売機などの企業側から)甘んじられているのだ」と指摘。意見を

色内大通り可能性探る

歴史的建造物が立ち並ぶ小樽・色内大通りの活性化を巡り有識者や地元経営者が話し合うシンポジウムが20日、同通り沿いのカフェバー「石と鉄」で開かれた。市民ら約50人が参加し、歴史と景観を生かしたまちづくりを考えた。

(西依一憲)

【事業協力】

小樽が挑む

北海道の「心臓」と呼ばれたまち

日本遺産3件目

【小樽】小樽市が今年、3件目の日本遺産認定に挑んでいる。既に道内外の「北前船寄港地」と、空知の炭鉱・室蘭の鉄鋼・小樽の港から成る「炭鉄港」の構成自治体の一員として日本遺産に認定されており、今回は市単独認定を目指す。自治体単独を含め3件が認定されれば岡山県倉敷市、広島県尾道市、山形県鶴岡市に続く国内4市目で、道内初。ただ文化庁に申請した構成文化財候補は認定済み5件が重複している上、現在の遺産活用も十分ではないとの指摘もあり、実現への道程は険しそうだ。（渡辺佐保子）

「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」。1月に小樽市で開かれた市日本遺産推進協議会で、単独認定に向けた申請タートルが決まった。

単独認定を目指すのは、歴史遺産が集積する小樽の魅力を効果的に発信して、観光振興などにつながる狙いがある。鉄路などで集まった物資が、小樽港を通じて本州に運ばれた歴史を「心臓が血液を循環させる」（同協議会）様子になぞらえた。小樽ゆかりの作家小林多喜二が昭和初期の随筆で表現したことにも由来。

同市が日本遺産に関心を示したのは2015年秋。制度は同年、文化庁が新設。地域の歴史的物語性を重視するとの趣旨を知った市内の文化関係者から、運河や倉庫群など近代化の歴史

初の単独 魅力発信狙う



旧日銀小樽支店（右）など往時の繁栄を伝える「色内銀行街」。小樽市単独での日本遺産認定の構成文化財候補の一つだ

アングル

を色濃く現す施設が残る「小樽こそ申請すべきだ」との声が出

て準備を始めた。当時は「市の文化財を活用したまちづくりへの関心は薄かった」（市幹部OB）。市内の国や道、市の指定文化財は旧日本郵船小樽支店（国の重要文化財）など15件で、倉敷市の163件の1割にも満たない。

そんな中、小樽には18年以降、そんな中、小樽には18年以降、市は今年1月に行った単独申請で、構成文化財候補に37件を盛り込んだ。うち「色内銀行街」「小樽港北防波堤」を含め5件は炭鉄港などで認定済み。重複とみられれば、不利に働きかねない。

日本遺産は文化庁が目指す100件程度に対し83件が認定。道内では今年、根室管内標津町など1市3町がサケ漁、札幌市など30市町が道内の食産業をテーマに申請。全国では約70件が申請したとみられる。

「心臓」のアイデアを出した小樽商大の高野宏康学術研究員は言う。「北海道の近代史を心臓として支えた小樽の単独認定は、北海道発展の歴史が認められたことにもなる。ハードルが高いが、ぜひ実現させたい」

日本遺産 文化庁が地域の風土に根ざした文化の「ストーリー」を認定する制度。道内関連では、釧路管内江差町の「ニシンの繁栄が息づく町」（2017年）、上川管内上川町を中心とする「カムイと共に生きる上川アイヌ」（18年）など計4件が認定されている。今年の認定結果は5月中にも出る見込み。

北海道新聞（2020年2月9日付）

【講演】



講演1

「炭鉄港」による地域の物語の発掘と広域連携

高野宏康

小樽商科大学

グローバル戦略推進センター地域経済研究部
学術研究員 博士(歴史民俗資料学)

講演2

産業遺産活用の取組み

～日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」を事例に～

和田幸司

朝来市 市長公室 総合政策課 副課長

パネルディスカッション

「炭鉄港」とクラウスの記憶をどう活かすのか

吉岡宏高

NPO法人 炭鉱の記憶推進事業団 理事長

高野宏康

和田幸司



「炭鉄港」日本遺産認定記念フォーラム クラウスの記憶を明日へつなぐ



日時 2020年2月15日(土)
10:30～12:30

入場
無料

会場 ほろしん温泉「クリスタルホール」
沼田町字幌新377番地



令和元年度文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)

参加申込みの詳細は裏面をご覧ください



クラス15号蒸気機関車

【講演】



講演1

小樽をもっと“つないで活かす”
～まちの物語を活かしてこそその日本遺産

駒木定正

北海道職業能力開発大学 特別顧問
博士(工学)

講演2

産業遺産活用への取り組み

～日本遺産「播磨貫く、銀の馬車道 鉱石の道」を事例に～

和田幸司

朝来市 市長公室 総合政策課 副課長

パネルディスカッション

「炭鉄港」は終わらない

吉岡宏高

NPO法人 炭鉱の記憶推進事業団 理事長

高野宏康

小樽商科大学

グローバル戦略推進センター地域経済研究部

学術研究員 博士(歴史民俗資料学)

駒木定正

和田幸司



「炭鉄港」日本遺産認定記念フォーラム
まちの記憶を明日へつなぐ



日時

2020年2月16日(日)
15:30～17:30

入場
無料

会場

小樽市民センター「マリンホール」
小樽市色内2丁目13番5号



手宮線鉄道施設



令和元年度文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)

参加申込みの詳細は裏面をご覧ください

【講演】

クラウドから新たな物語を

炭鉄港

日本遺産に



日本遺産「炭鉄港」が地域にもたらすプラス効果や可能性を語る参加者たち

日本遺産認定記念

沼田でフォーラム

【沼田】日本遺産「炭鉄港」の認定記念フォーラム（炭鉄港推進協議会主催）の第1弾が15日、町幌新のほろしん温泉はたる館で開かれた。道内外の専門家3人が日本遺産の意義や内陸開拓の拠点だった小樽と空知のつながりなどを取り上げ、約100人が耳を傾けた。

NPO法人炭鉄港の記憶推進事業団の吉岡宏高理事長は、構成文化財の一つで沼田にある「クラウドス15号蒸気機関車」について「クラウド自体（のストーリー）を深めるのも限界がある」と指摘。クラウドと町内の炭鉱や鉄道の遺構と結

びつけて新たな物語を紡いだり、石炭の積み出し港だった留萌や日本海沿岸の旧炭鉱と組み合わせたりして発信することを提案した。

小樽商科大の高野宏康学術研究員は、観光名所の小樽オルゴール堂の建物は沼田町の開拓の祖、沼田喜三郎が設立した会社だったことを紹介。小樽にとつての炭鉄港の意義について「ばらばらだった港湾遺産や鉄道遺産などが炭鉄港の『ストーリー』を通じてつながった」と強調した。

兵庫県朝来市の和田幸司総合政策課副課長は地元の日本遺産を巡る取り組みを説明し「他の施策でも企業や自治体間の広域連携が出てきた」と報告した。（星野真）

【講演】

2020年(令和2年)02月17日(月曜日) 北海道新聞 朝刊 地方 小樽・後志 15ページ

「小樽は文化財生かすマチ」

認定記念フォーラム 駒木さんら講演

炭鉄港

日本遺産に

日本遺産「炭鉄港」の認定記念フォーラム(炭鉄港推進協議会主催)が16日、小樽市民センター・マリンホール(色内2)で開かれ、文化財を観光やまちづくりに生かす方法を考えた。約200人が来場した。

北海道職業能力開発大学校



文化遺産の広域連携の必要性やガイドの育成について話し合ったフォーラム

和田幸司副課長は「歴史や文化を発信するガイドの高齢化が課題。2年前から高校生を対象に日本遺産の活用を考えるフォーラムを開いている」と話した。NPO法人炭鉄の記憶推進事業団(岩見沢)の吉岡宏高理事長と小樽商科大の高野宏康学術研究員、駒木さんと和田さんの

(銭函3)の駒木定正特別顧問は、旧国鉄手宮線跡が小樽雪あかりの路のメイン会場になっている例を挙げ「小樽市民は20年以上前から文化財を生かしたまちづくりに取り組んできた」と強調。「今後は他の自治体の文化遺産とつなぐような活動が必要」と述べた。2017年に生野鉱山などが日本遺産に認定された兵庫県朝来市総合政策課の

4人によるパネル討論も行われた。

炭鉄港は空知の炭鉱、室蘭の鉄鋼、小樽の港と各地をつなぐ鉄道からなる産業遺産。昨年5月に小樽を含む12市町が日本遺産に認定された。(渡辺佐保子)

【講演】



地域の魅力を伝えるガイドになりませんか？

炭鉄港 日本遺産「炭鉄港」ガイド養成事業

参加費無料

2月22日(土)
14:00～17:00

小樽地区

開拓使が設置された1869年からわずか150年という短い期間で、5万人弱だった人口が100倍近く増え、豊かな社会を達成した北海道。その歴史をひも解くと、空知（石炭）、室蘭（製鉄）、小樽（港湾）とそれらをつなぐ鉄道を舞台に繰り広げられた、産業革命の物語（ストーリー）が見えてきます。この「炭鉄港（たんでつこう）」ストーリーは、令和元年5月20日に文化庁が選定する「日本遺産」に認定されました。

そこで今回、「炭鉄港」の魅力を多くの来訪者に発信するガイド養成講座を開催いたします。みなさんがこれまで住んできた地域の魅力を、よりたくさんの人に伝えていきませんか？今年度は空知、室蘭、小樽地区でそれぞれ導入的講座を開催します。これまでガイドをやっていない方もお気軽にご参加ください。

講演 小樽と日本遺産、そして「炭鉄港」の魅力



講師：高野 宏康氏
小樽商科大学 グローカル戦略推進センター
地域経済研究部 学術研究員
博士（歴史民俗資料学）

講演 地域の魅力を伝えるガイドの心得 ～三笠ジオパークの事例から～



講師：下村 圭氏
三笠ジオパーク推進協議会 事務局次長

日時 令和2年2月22日（土）
14:00～17:00（13:30 受付開始）

会場 運河プラザ三番庫
（小樽市色内2丁目1-20/運河プラザ内）

お申込 電話かメールでお申込みください
☎ 011-232-3661（伊田）
✉ ida@northerncross.co.jp

参加費 無料



令和元年度文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）

この事業は、炭鉄港推進協議会の委託を受けた株式会社ノーザンクロス・北海道地図株式会社が運営します。

お問い合わせ

株式会社ノーザンクロス
札幌市中央区大通東2丁目3番地1
第36桂和ビル7階
☎ 011-232-3661 担当：伊田

北海道地図株式会社
旭川市台場1条2丁目1-6
☎ 011-818-1400 担当：千葉

炭鉄港推進協議会事務局
（空知総合振興局内）
岩見沢市8条西5丁目